

3) 調査の実施結果

・以下のとおりである。

調査箇所		調査結果
壁面	洋室 1 の北面・開き扉西 (Y9 通りの X3～X4 の間)	・柱 (150×150) が確認できた ・腐朽などは確認できなかった ・壁紙の重なり等の改修の履歴は確認できなかった
	洋室 1 の北面・開き扉東 (Y9 通りの X5～X6 の間)	・柱 (150×150) が確認できた ・腐朽などは確認できなかった ・壁紙の重なり等の改修の履歴は確認できなかった
	洋室 1 の東面・開き扉北 (X6 通りの Y8～Y9 の間)	・柱 (150×150) が確認できた ・腐朽などは確認できなかった ・壁紙の重なり等の改修の履歴は確認できなかった
	洋室 1 の東面・開き扉南 (X6 通りの Y6～Y7 の間)	・柱 (150×150) が確認できた ・腐朽などは確認できなかった ・壁紙の重なり等の改修の履歴は確認できなかった
	洋室 1 の東面・上げ下げ窓北 (X6 通りの Y3～Y4 の間)	・柱 (150×150) が確認できた ・腐朽などは確認できなかった ・壁紙の重なり等の改修の履歴は確認できなかった
床面	廊下の床面 (床下)	・大引、根太、床束、束石の存在・寸法を確認できた ・腐朽などは見られなかった (玄関先の床下は確認できなかった) ・改修前のものとみられる束石、束、横架材などが確認できた
	附属棟の床面 (床下)	・大引、根太、床束、束石の存在・寸法を確認できた ・腐朽は見られなかった ・X3 通り付近の束や大引、土台に雨染み、白いカビが確認できた
	蔵の床面 (床下)	・大引、根太、床束、束石の存在・寸法を確認できた ・X3 通りの土台や同通り付近の根太に腐朽が見られた ・束に雨染みが確認できた
天井面	蔵の天井面 (小屋裏)	・梁、桁、束、棟木等の存在・寸法を確認できた ・腐朽などは見られなかった

・なお、破壊箇所における調査後の仮復旧については、発注者と協議の上、次のような対応を行った。現地写真は参考資料に示すとおりである。

→壁面は別途準備した面材で仮止めを行った

→床面は別途準備した面材を覆いかぶせし、穴をふさいだ

→天井面は穴をあけた状態のままとした

(4) 現況図の作成

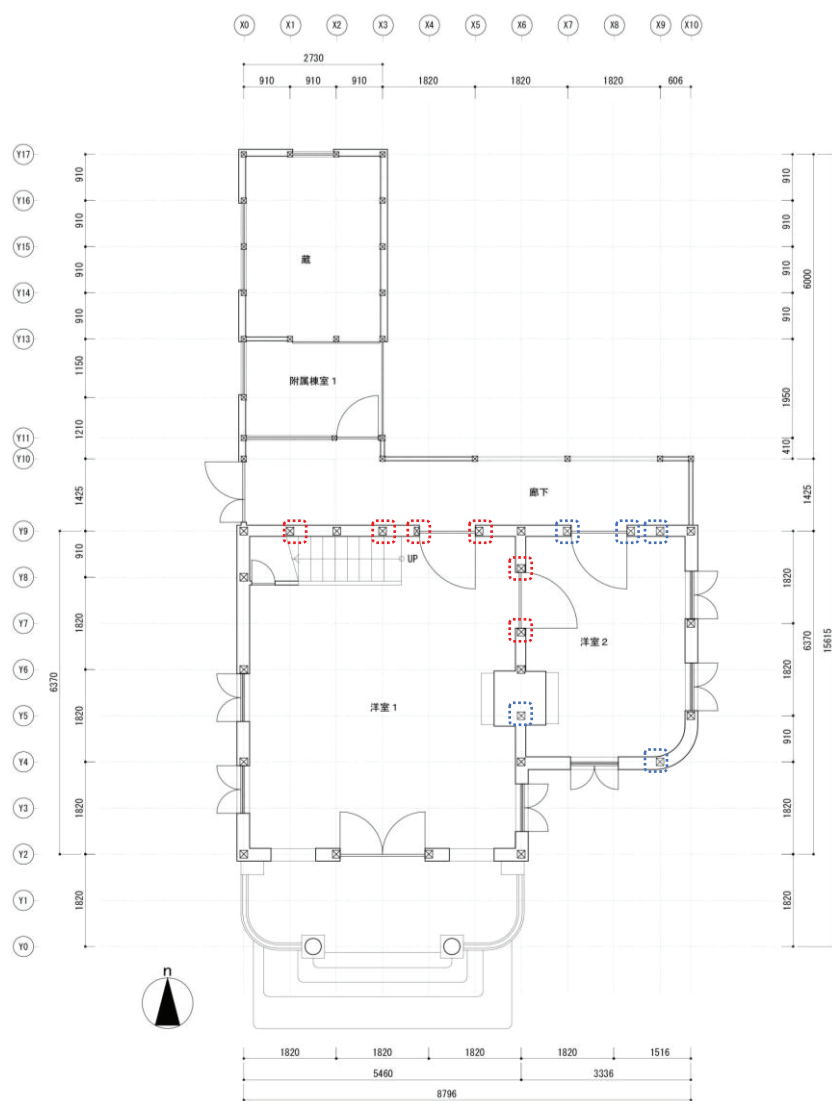
- ・作成した現況図面の一覧は下表、図面は次頁以降に示すとおりである。

表 作成した現況図面の一覧

項目	図面番号	図面名	縮尺	備考
概要	A-01	図面リスト	－	－
意匠図	A-02	配置図	1/150	鎌倉市提供図面を微修正
	A-03	求積図 1	1/100	現況調査による
	A-04	求積図 2	1/100	既存図面より算出
	A-05	仕上表	－	昭和 55 年の改修工事図面をトレース
	A-06	平面図	1/100	現況調査による
	A-07	断面図	1/100	現況調査による
構造図	A-08	基礎伏図、1 階床伏図	1/100	現況調査による
	A-09	2 階床伏図、小屋伏図	1/100	現況調査による
	A-10	屋根伏図	1/100	現況調査による
	A-11	軸組図 1	1/100	現況調査による
	A-12	軸組図 2	1/100	現況調査による
設備図	A-13	現況コンセント・弱電平面図	1/100	現況調査による

・なお、作成した現況平面図の柱の位置は、過年度調査で作成された平面図をベースに、現地で確認し、修正を加えて作成している。過年度調査からの修正箇所は、下記の三点である。

- ①過年度調査で記載のなかった箇所で柱の存在を現地で確認できたもの、又は、柱の位置が現地とずれていることを確認できたものを記載
- ②過年度調査で記載のなかった箇所で柱があると推察されるものを記載
- ③過年度調査で記載のあった個所で現地が開口部にあたったものは削除

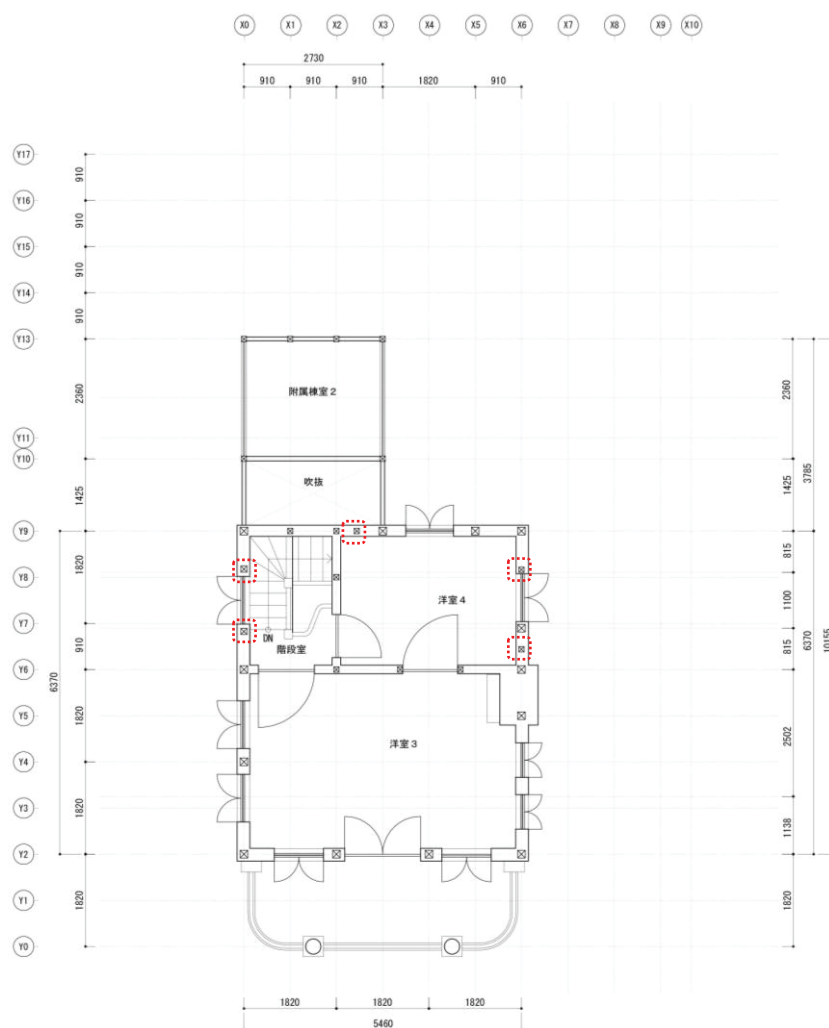


既存1階平面図

 過年度調査で記載のなかった箇所で柱の存在を現地で確認できたもの、又は、柱の位置が現地とずれていることを確認できたもの

 過年度調査で記載のなかった箇所で柱があると推察されるもの

図 柱の位置（1階）



既存2階平面図

過年度調査で記載のなかった箇所でも柱の存在を現地で確認できたもの、又は、
 柱の位置が現地とずれていることを確認できたもの

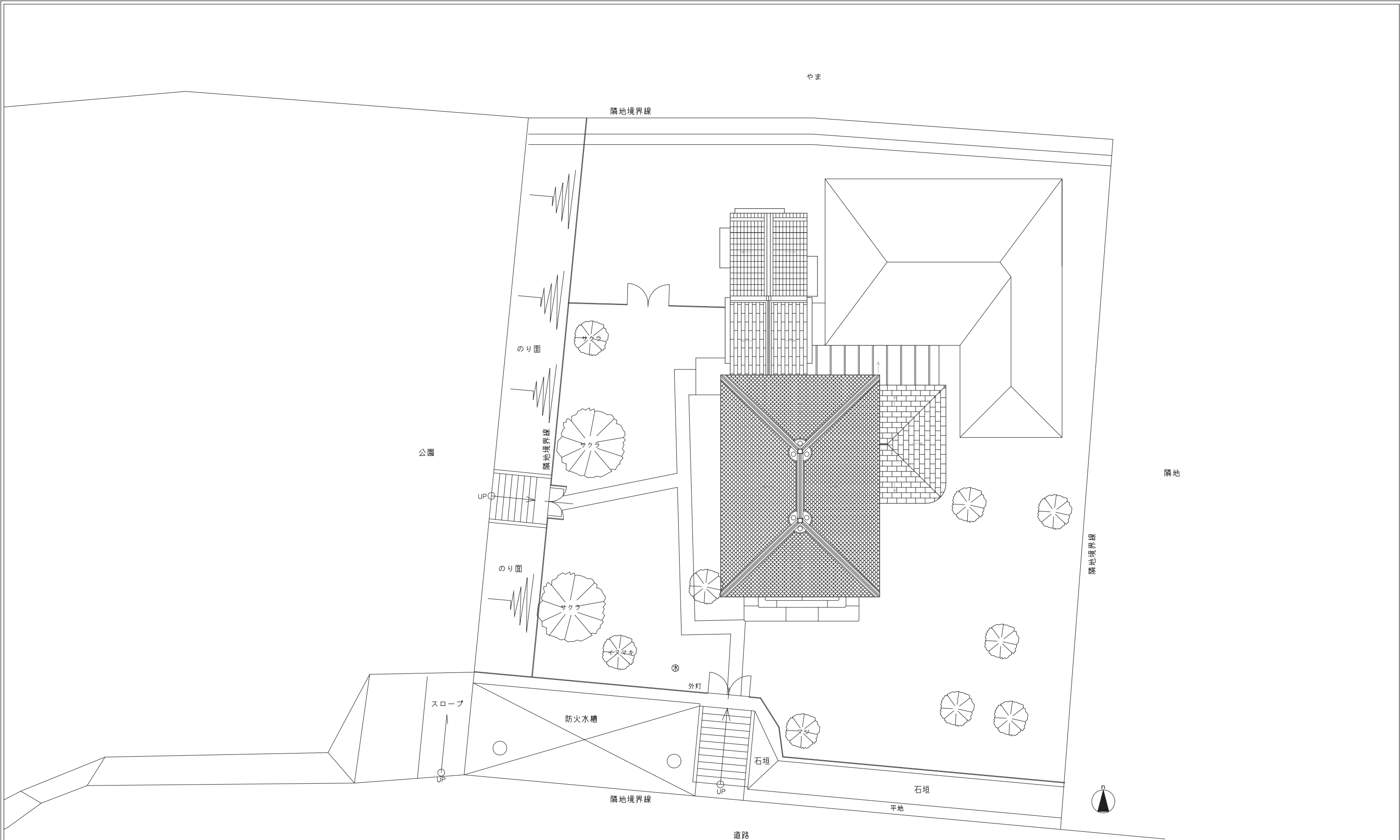
図 柱の位置（2階）



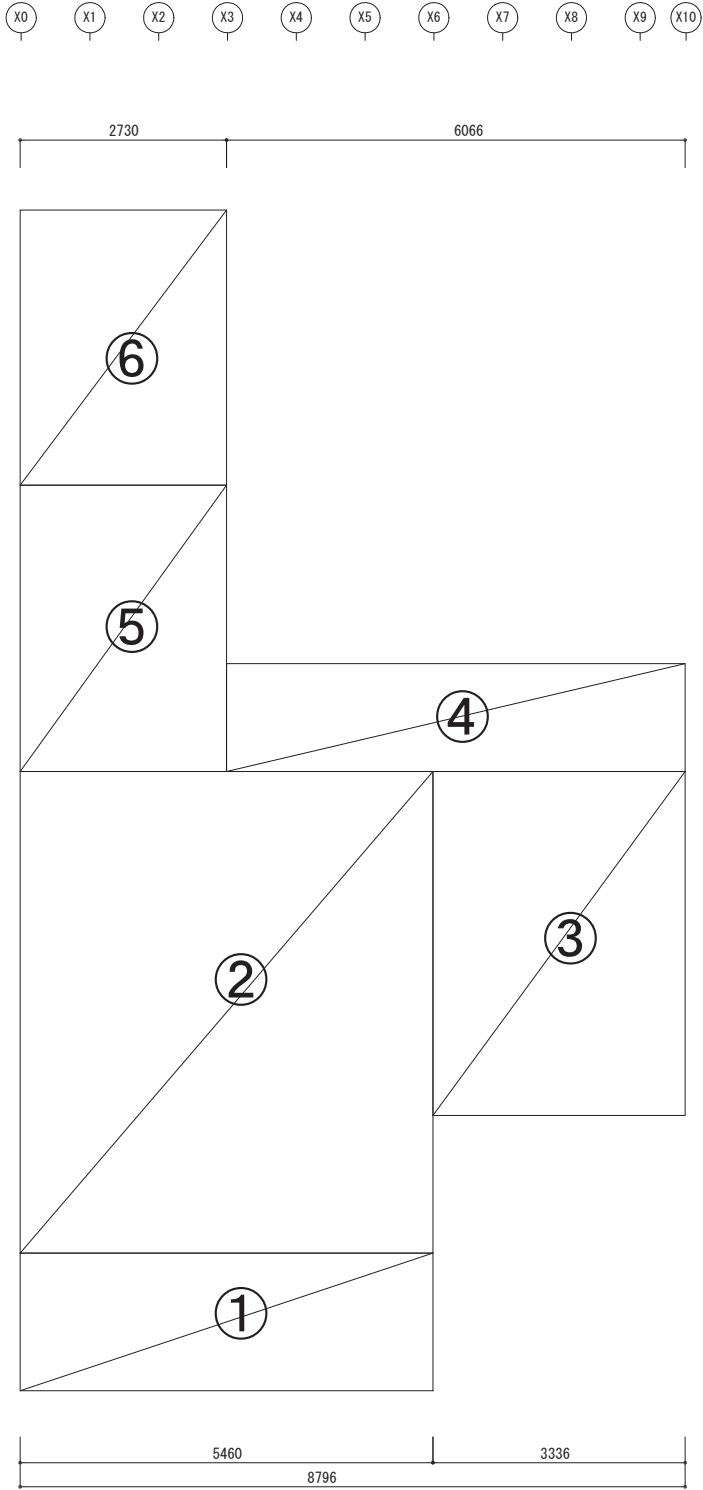
鎌倉市旧諸戸邸耐震診断業務

旧諸戸邸（旧鎌倉市長谷子ども会館） 現況図

項目	図面番号	図面名	縮尺	備考
概要	A-01	図面リスト	－	－
意匠図	A-02	配置図	1/150	鎌倉市提供図面を微修正
	A-03	求積図 1	1/100	現況調査による
	A-04	求積図 2	1/100	既存図面より算出
	A-05	仕上表	－	昭和 55 年の改修工事図面をトレース
	A-06	平面図	1/100	現況調査による
	A-07	断面図	1/100	現況調査による
構造図	A-08	基礎伏図、1 階床伏図	1/100	現況調査による
	A-09	2 階床伏図、小屋伏図	1/100	現況調査による
	A-10	屋根伏図	1/100	現況調査による
	A-11	軸組図 1	1/100	現況調査による
	A-12	軸組図 2	1/100	現況調査による
設備図	A-13	現況コンセント・弱電平面図	1/100	現況調査による

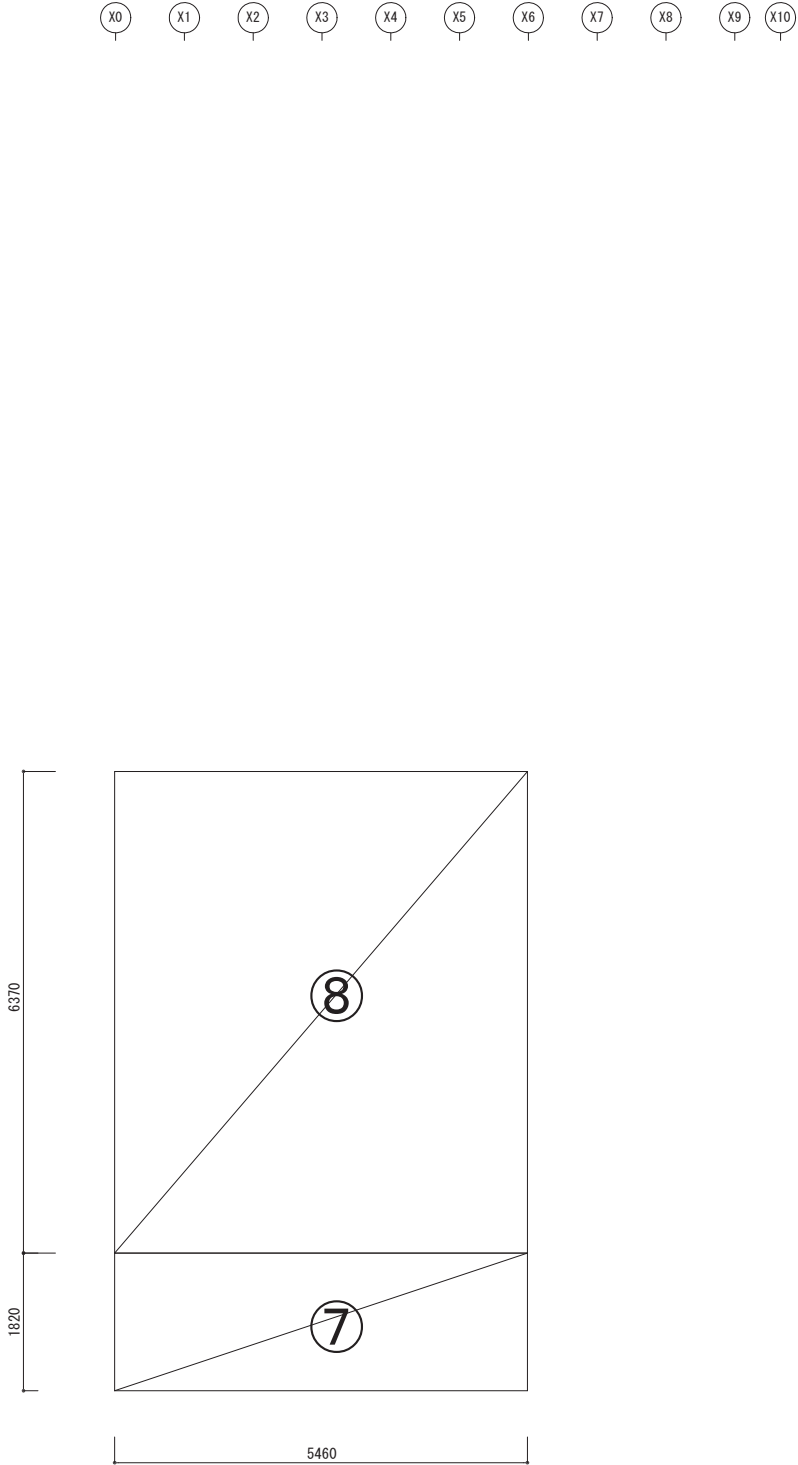


*本図面は測量図に元づいた敷地図ではない
*本図面は鎌倉市より提供された図面を基に洋館、蔵の屋根伏図のみを修正した図である



文化財棟1階求積表

No	南北	×	東西	面積(mm2)
1	1,820	×	5,460	9,937,200
2	6,370	×	5,460	34,780,200
3	4,550	×	3,336	15,178,800
4	1,425	×	6,066	8,644,050
5	3,785	×	2,730	10,333,050
6	3,640	×	2,730	9,937,200
1～6の合計				88,810,050

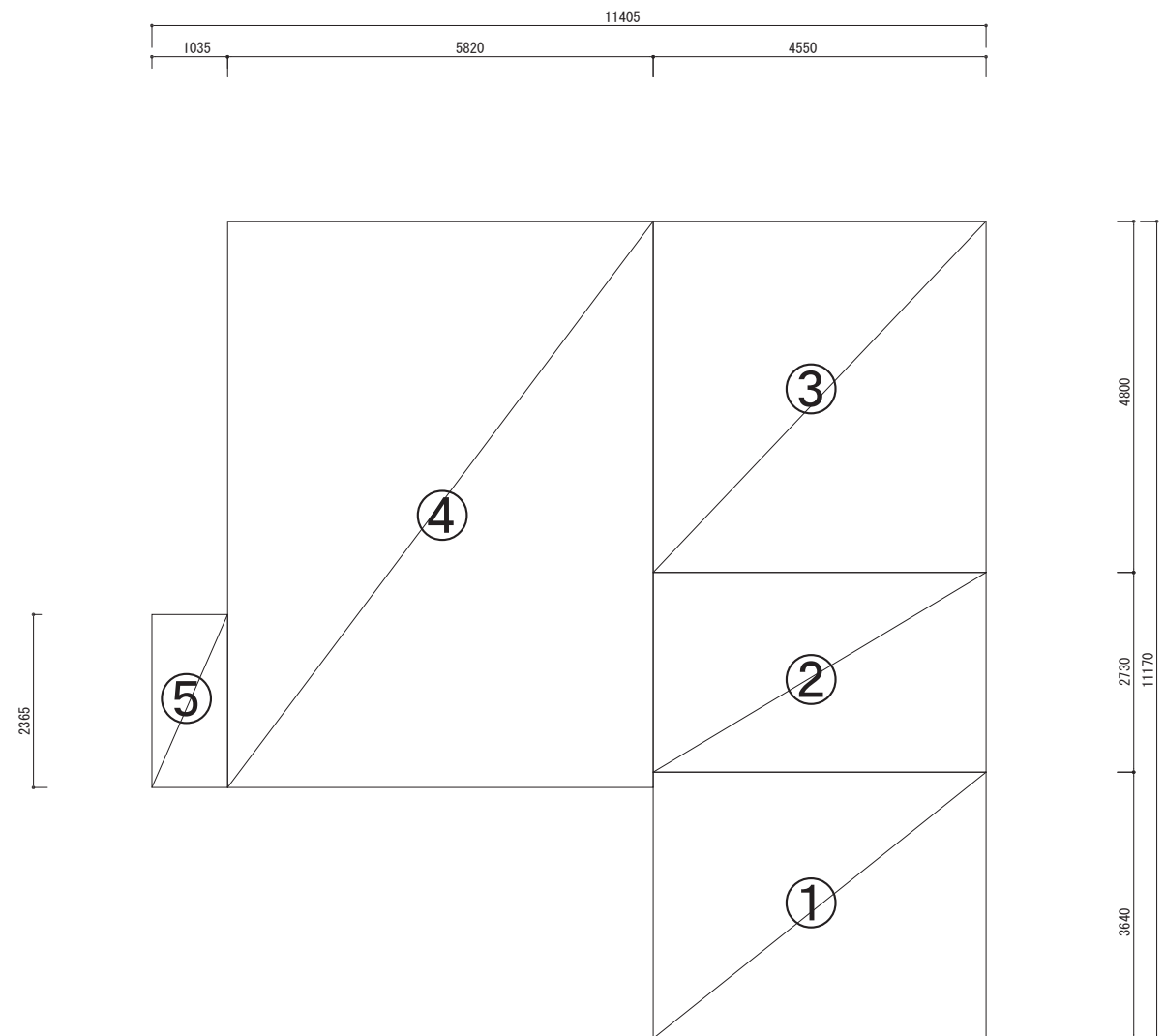


文化財棟2階求積表

No	南北	×	東西	面積(mm2)
7	1,820	×	5,460	9,937,200
8	6,370	×	5,460	34,780,200
7～8の合計				44,717,400

文化財棟合計求積表

	面積(m2)
1～8の合計	133,527,900



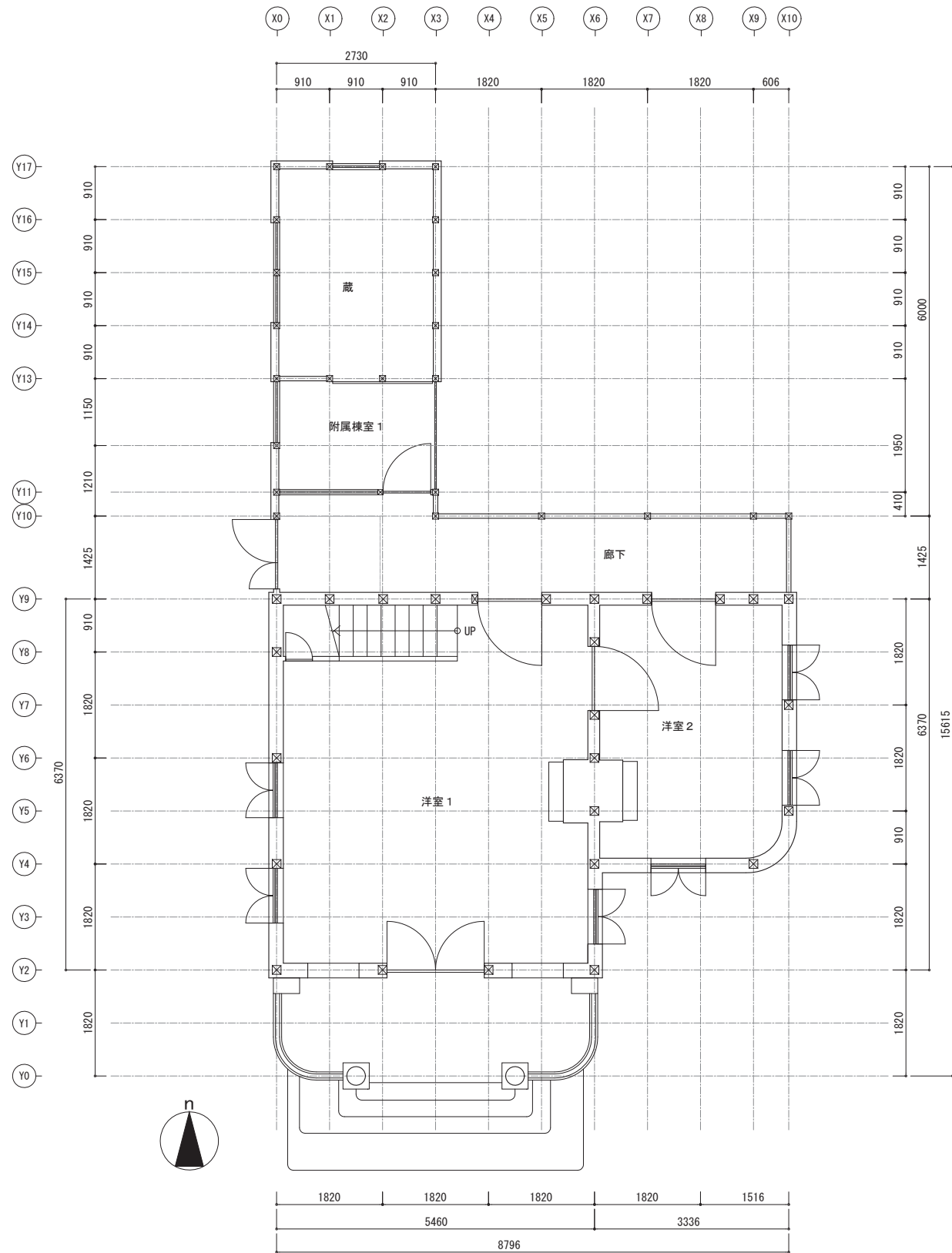
増築棟1階求積表

No	南北	×	東西	面積 (mm2)
1	4,550	×	3,640	16,562,000
2	6,370	×	2,730	17,390,100
3	4,550	×	4,800	21,840,000
4	5,820	×	7,530	43,824,600
5	1,035	×	2,365	2,447,775
1～5の合計				102,064,475

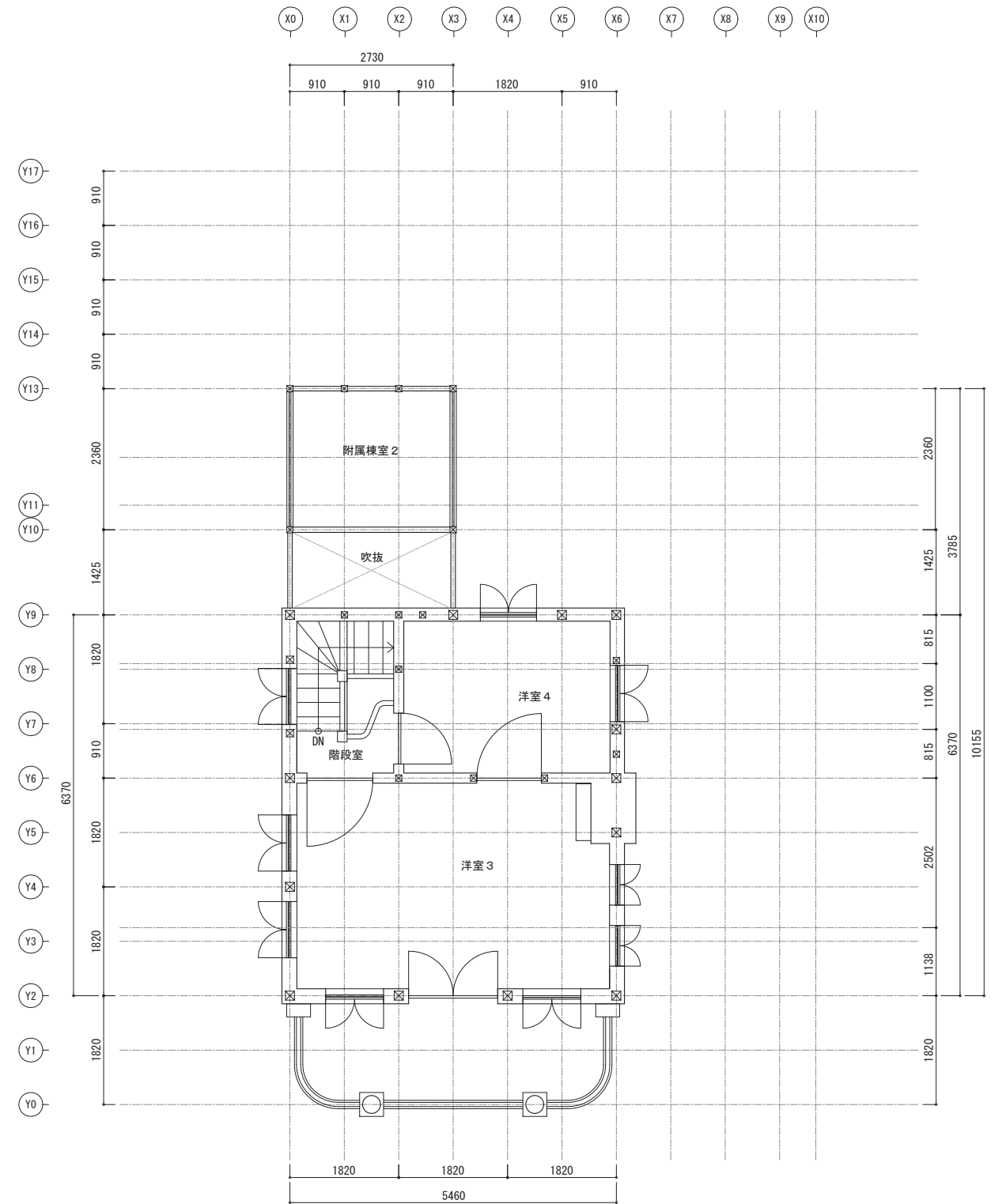
外部仕上表		洋館部分		和小屋建物（蔵部分）	
		既存	改修後	既存	改修後
屋根		天然スレート葺(粘板岩)うろこ型銅板製棟包み及び頂華(コロニアル)	既存天然スレート葺き通し(一部補足)下地補強銅板製・棟包み及び頂華取り替え	瓦葺	既存調整 及 破損部は補足(下地共)
樋		二重軒樋（内側）、銅板製、外側、鉄板製銅板製壁樋	二重軒樋取り替え(外・内側共)銅板製壁樋取り替え	銅板製軒樋	
軒天		砂漆喰		野地板あわらし	既存面下地調整後OP塗装
外壁		〃		㊦ 20 杉板南京下見張り	〃
窓・出入口飾り枠		〃		木枠	〃
蛇腹		〃		なし	なし
外巾木		人造石張り		なし	なし
基礎				砂岩 2段積	既存のまま
テラス 及び 2階バルコニー		床:人造石張り目地切 柱:モルタルペイント仕上 7カリ壁:砂漆喰 巾木:人造石塗り 天井:プラスター 手摺:木製手摺 階段:(1階) 錬鉄製手摺子		なし	なし

内部仕上表		階数	室名		床	巾木	腰壁	壁	天井	備考
改修保存部分	洋館部分	1階	洋室 1	既存	カーベット・寄木張り（一部接着のうき部材の欠損あり）	㊦ ケヤキ材 仕上 H＝190	なし	壁紙貼り(木摺下地)	紙貼り(木摺下地)	スチールシャッター・ダンロ・天井廻り縁・中心飾り(天井)
				改築後	カーベット敷き直し・寄木張り一部補足ワックス仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	長尺塩ビシート張り H＝700マデ見切縁(㊦ 3.0ラワン合板下地)	既存のまま(破損面補修)	既存のまま(破損面補修)	建具・枠・天井蛇腹下地調整及び塗り直し、建具調整補足(建具金物含む)
			洋室 2	既存	寄木張り（一部接着のうき部材の欠損あり）	㊦ ケヤキ材 仕上 H＝145	腰羽目(鏡板張り)：ケヤキ小幅板張り 仕上	プラスター塗り(木摺下地)	プラスター塗り(木摺下地)	ダンロ・天井廻り縁・中心飾り(天井)
				改築後	寄木張り一部補足ワックス仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	既存プラスター面V.P. 塗装(つや消し仕上)	既存プラスター面下地調整後V.P. 塗装(つや消し仕上)	建具・建具枠・下地調整及び塗り直し、建具調整・補足(建具金物含む)
		2階	洋室 3	既存	カーベット・寄木張り（一部接着のうき部材の欠損あり）	㊦ ケヤキ材 仕上 H＝180	なし	壁紙貼り(木摺下地)	紙貼り(木摺下地)	ダンロ・天井廻り縁・スチールシャッター
				改築後	カーベット敷き直し・寄木張り一部補足ワックス仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	既存のまま(破損面補修)	既存のまま(破損面補修)	建具・建具枠・天井蛇腹下地調整塗り直し、建具調整・補足(建具金物含む)
			洋室 4	既存	寄木張り（一部接着のうき部材の欠損あり）	㊦ ケヤキ材 仕上 H＝170	腰羽目(中板張り)：㊦ ケヤキ小幅板本実桧立板張り 仕上	壁紙貼り(木摺下地)	㊦ ケヤキ小幅板本実桧張り組合せ天井 仕上	
				改築後	寄木張り一部補足ワックス仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	長尺塩ビシート張り H＝700マデ見切縁(㊦ 3.0ラワン合板下地)	既存のまま	既存面素地調整後	建具・建具枠・下地調整及び塗り直し、建具調整・補足(建具金物含む)
		和館部分	階段室	既存	カーベット（止め金具使用）・寄木張り	㊦ ケヤキ材 仕上	なし	壁紙貼り(木摺下地)	㊦ ケヤキ小幅板本実桧張り	中心飾り(天井)・スワンネック型 手摺
				改築後	カーベット敷き直し（既存止め金具使用可）寄木張りワックス仕上	既存面サンドペーパー掛けの上、ニス又はカチュー仕上	長尺塩ビシート張り H＝700マデ見切縁(㊦ 3.0ラワン合板下地)	クロス張り直し(木摺下地の上より P 3.0ベニヤ張り下地)	既存面素地調整後	
		1階	廊下	既存	㊦ 桧 縁甲板張り	なし	なし	しっくい壁・プラスター壁(破損あり)	竿縁天井	
				改築後	既存灰汁洗いワックス仕上	〃	〃	既存面破損部補修の上、V.P. 塗装(つや消し仕上)	一部解体・取合補修他、既存面灰汁洗い	水飲み場・下足箱
			附属棟室 1	既存	タタミ敷き	なし	なし	㊦ 20杉南京下見板張り	竿縁天井	
				改築後	12種合 フローリング合板	〃	〃	一部解体・取合補修 ㊦ 4.0 化粧合板張り	解体取合補修	受付カウンター
		2階	蔵	既存	㊦ 杉 板張り	なし	なし	㊦ 杉板目板打・縦羽目張り素地仕上	杉板張り	
				改築後	㊦ 12種合フローリング合板 ㊦ 15構造用合板下地	〃	〃	㊦ 4.0 化粧合板張り・一部解体取合補修	解体取合補修	
			蔵	既存	タタミ敷き	なし	なし	㊦ 杉板目板打・縦羽目張り素地仕上	和小屋組あrawし	
				改築後	解体取合補修	〃	〃	解体取合補修 ㊦ 4.0 化粧合板張り	解体取合補修	
			附属棟室 2	既存	タタミ敷き	なし	なし	しっくい塗	和小屋組あrawし	
				改築後	解体取合補修	〃	〃	解体取合補修 ㊦ 4.0 化粧合板張り	解体取合補修	

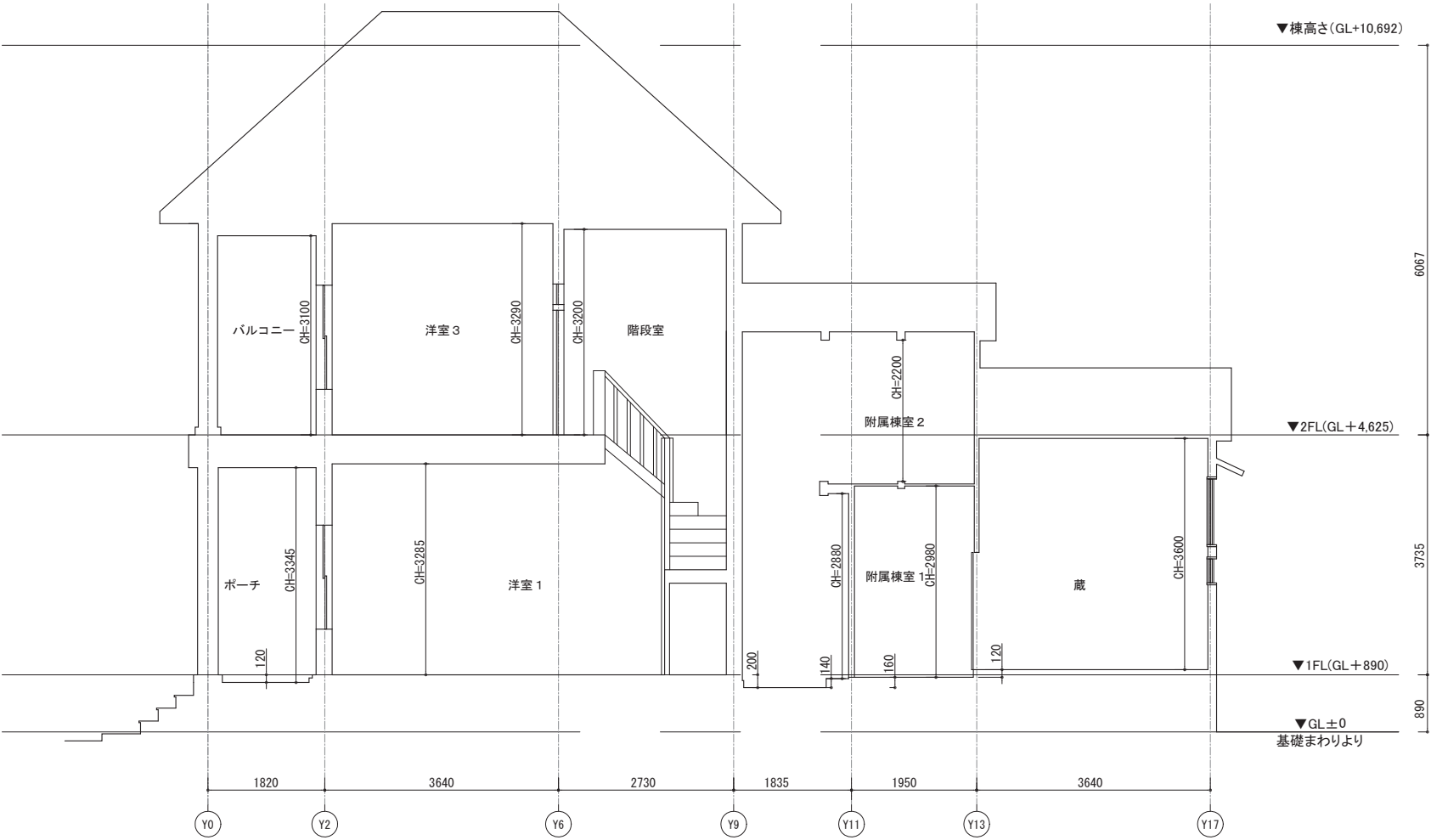
※本仕上表は、昭和55年の改修・増築計画時の図書の仕上表を書き起こしたものである。
※部屋名は、作成した平面図の部屋名に置き換えている。
※和館部分の2階の蔵の床は、現在撤去されている。



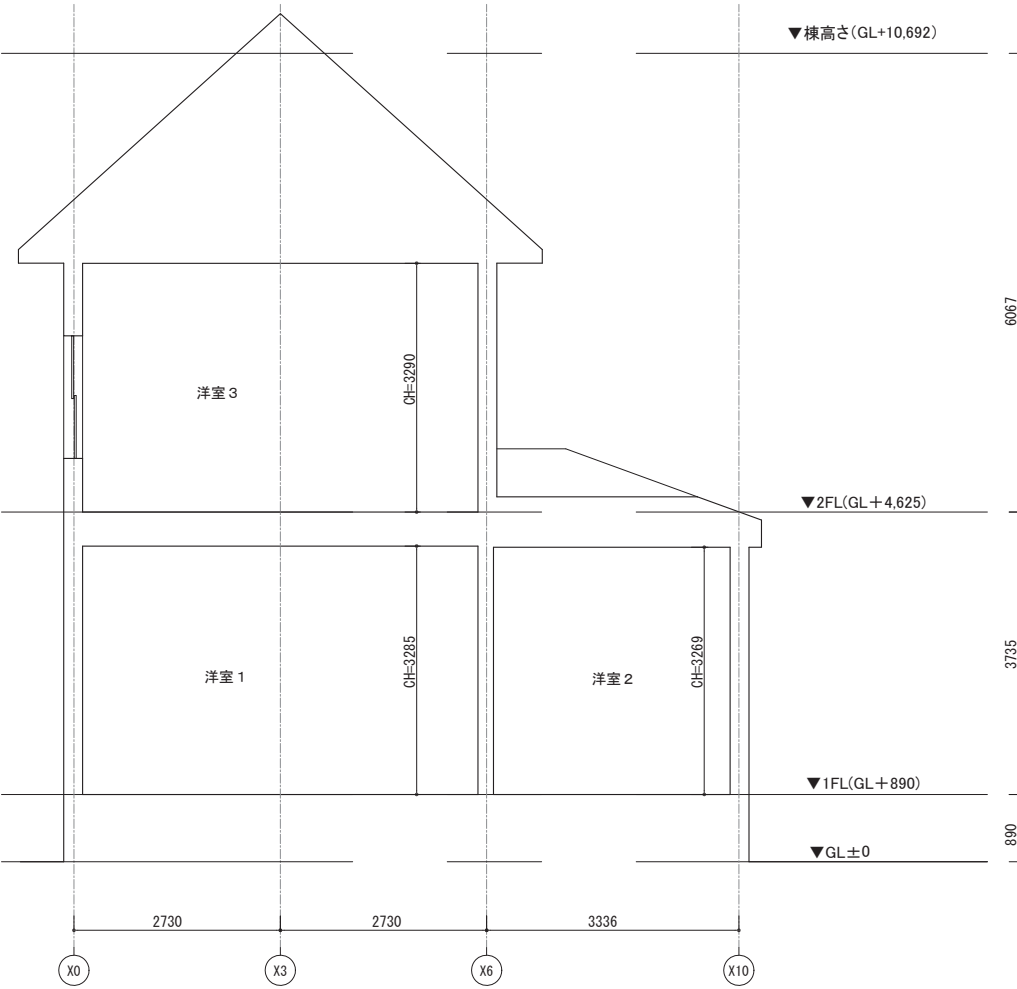
既存1階平面図



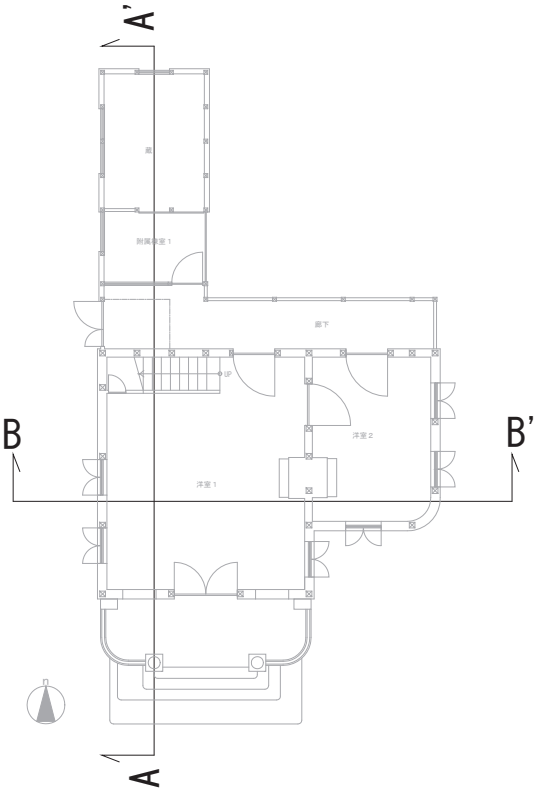
既存2階平面図

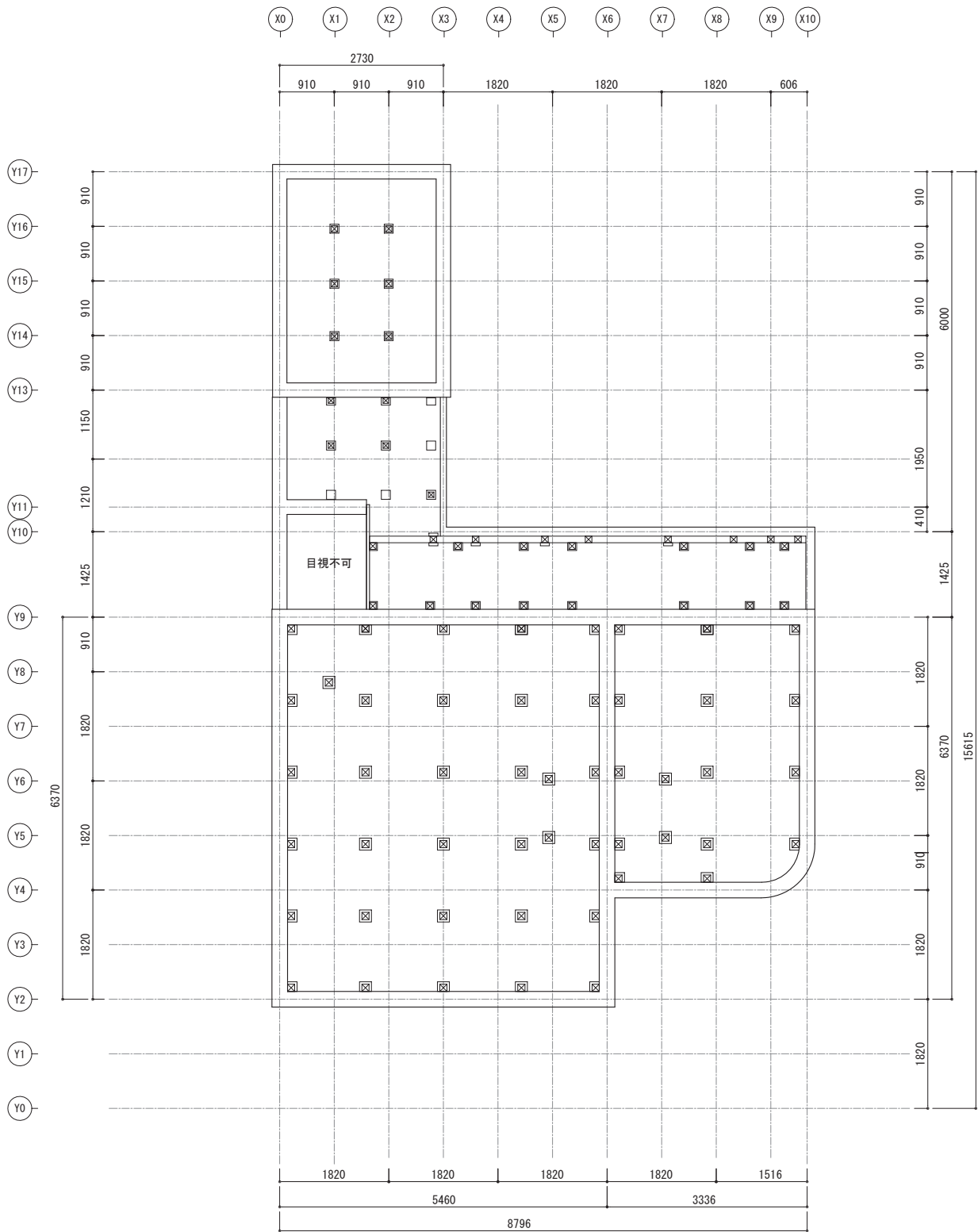


A-A'断面図



B-B'断面図





基礎伏図

洋館(本館)／特記なき限り

1. 東石(詳細未調査)
東石上端レベル
2. 基礎
(幅300)
GL±0 (1FL-890)
基礎下端レベル
基礎天端レベル
3. 東
120x120

洋館(附属棟)／特記なき限り

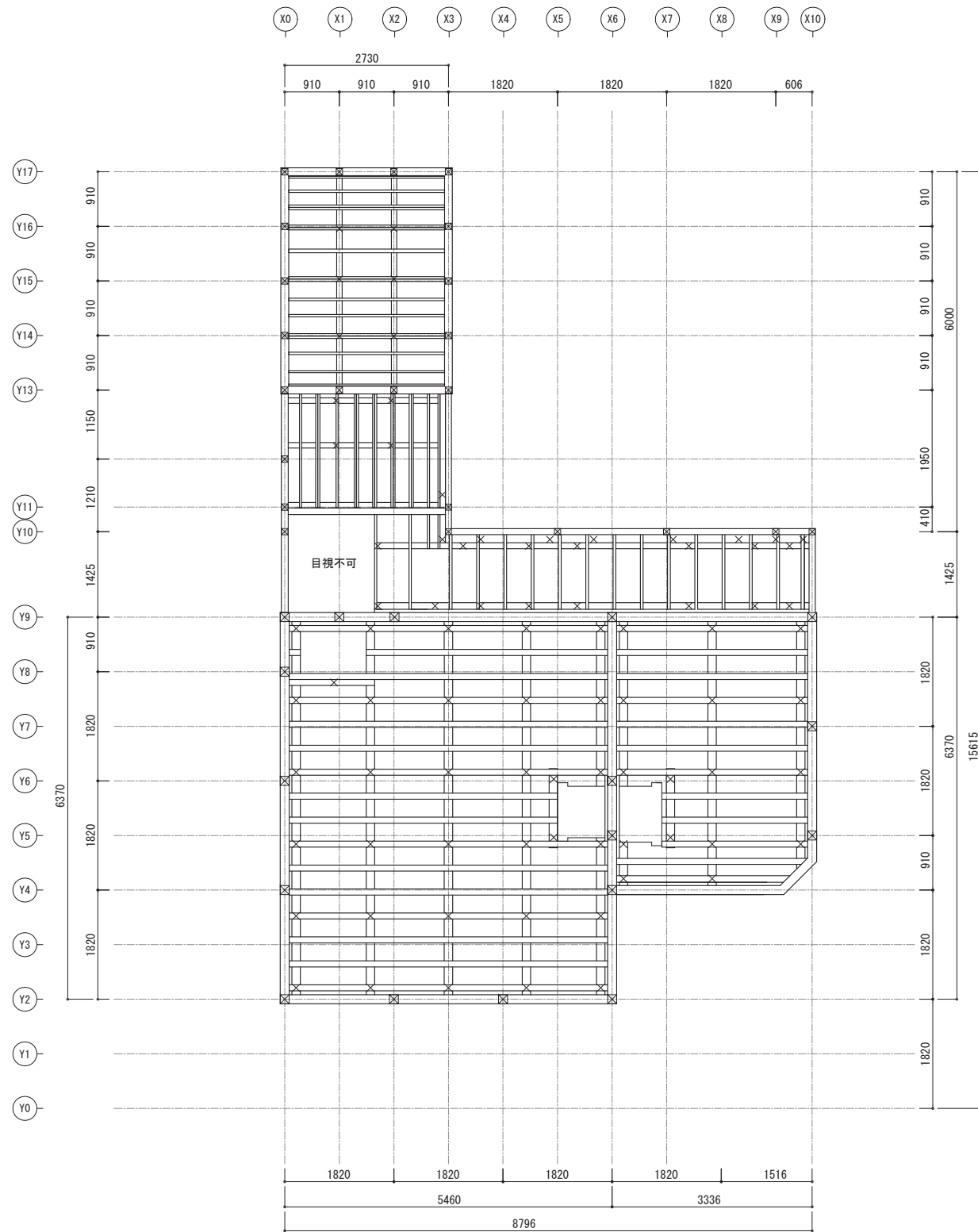
1. 東石(詳細未調査)
東石上端レベル
2. 基礎
(石:幅245、CB:測定不可能)
基礎下端レベル
基礎天端レベル
3. 東
90x90

洋館(廊下)／特記なき限り

1. 東石(改修後)
東石上端レベル
2. 基礎
(幅100)
KGL±0(1FL-660)
基礎天端レベル
3. 東
110x110

蔵／特記なき限り

1. 東石(詳細未調査)
東石上端レベル
2. 基礎
(幅240)
KGL±0(1FL-813)
基礎天端レベル
3. 東
105x105



既存1階伏図

洋館(本館)／特記なき限り

1. 土台
150x130
2. 土台天端レベル
1FL+70
3. 既存大引
大引天端レベル
1FL-120
4. 既存根太
根太天端レベル
1FL-30
5. 床仕様
板材(t=30)
6. 柱
150x150

洋館(附属棟)／特記なき限り

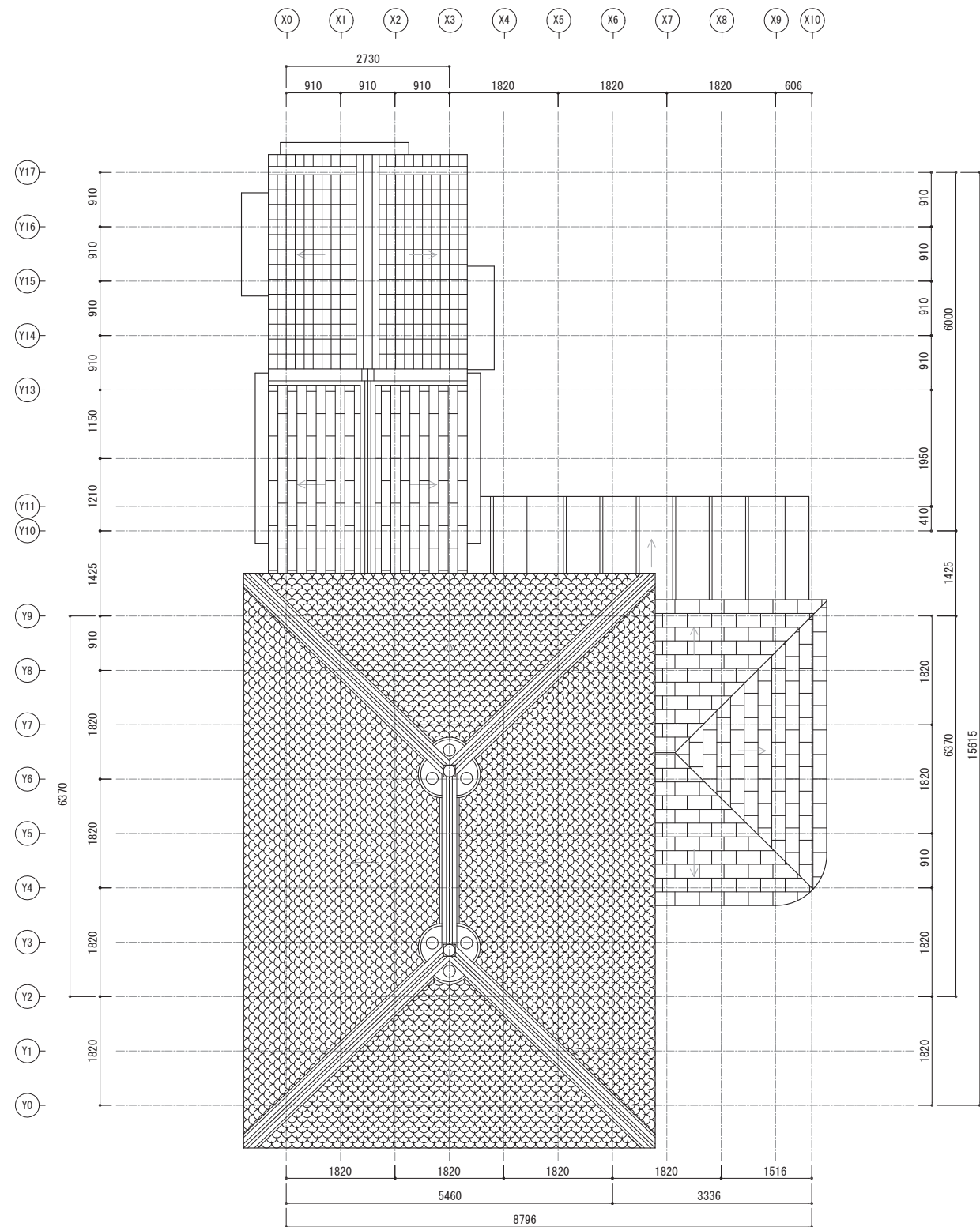
1. 土台
115×120
2. 土台天端レベル
GL+800
3. 既存大引
大引天端レベル
1FL-52
4. 既存根太
根太天端レベル
1FL-12
5. 床仕様
板材(t=12)
6. 柱
105x105

洋館(廊下)／特記なき限り

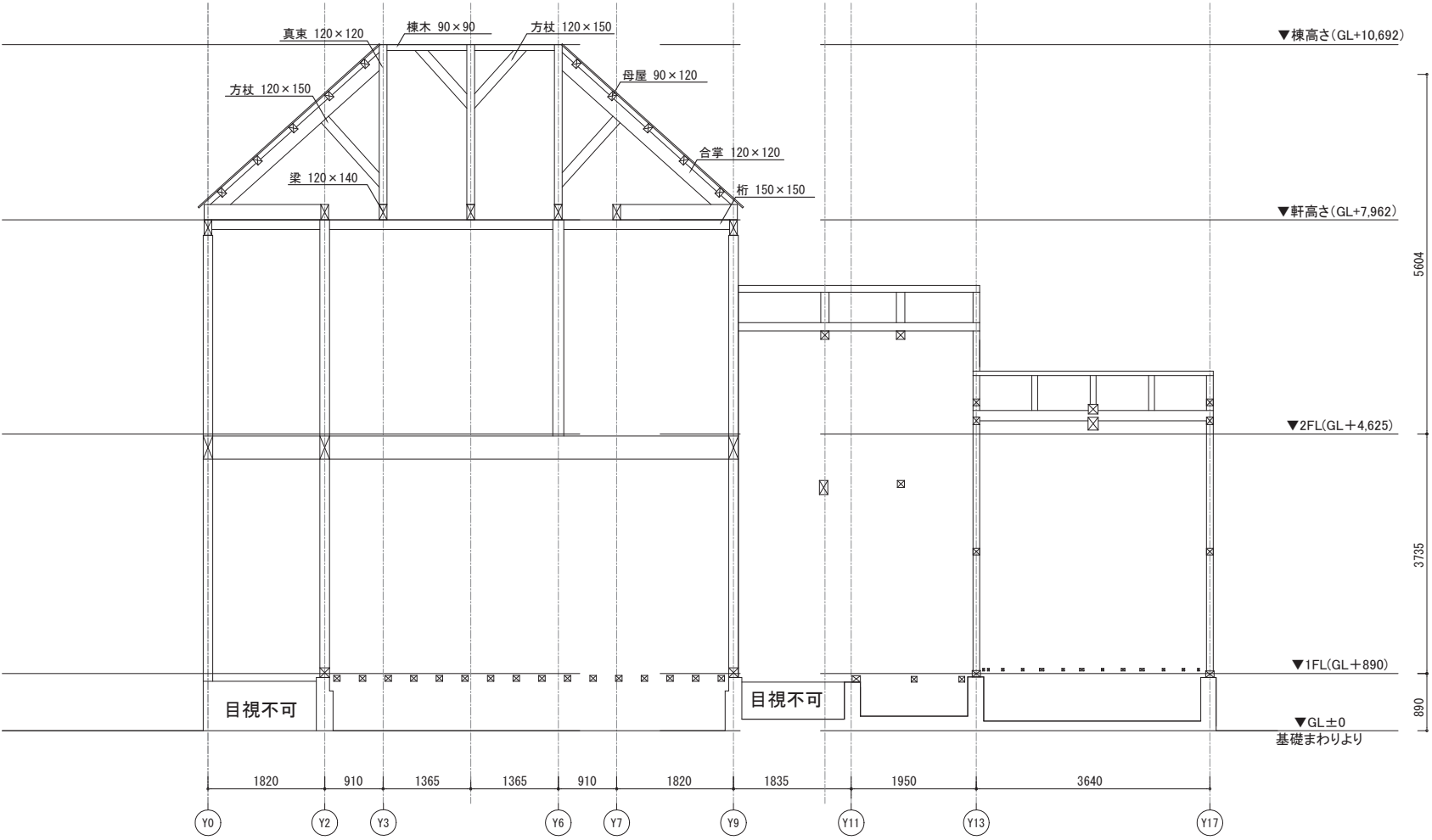
1. 土台
なし
2. 土台天端レベル
なし
3. 既存大引
大引天端レベル
1FL-135
4. 既存根太
根太天端レベル
1FL-30
5. 床仕様
板材(t=30)
6. 柱
105x105

蔵／特記なき限り

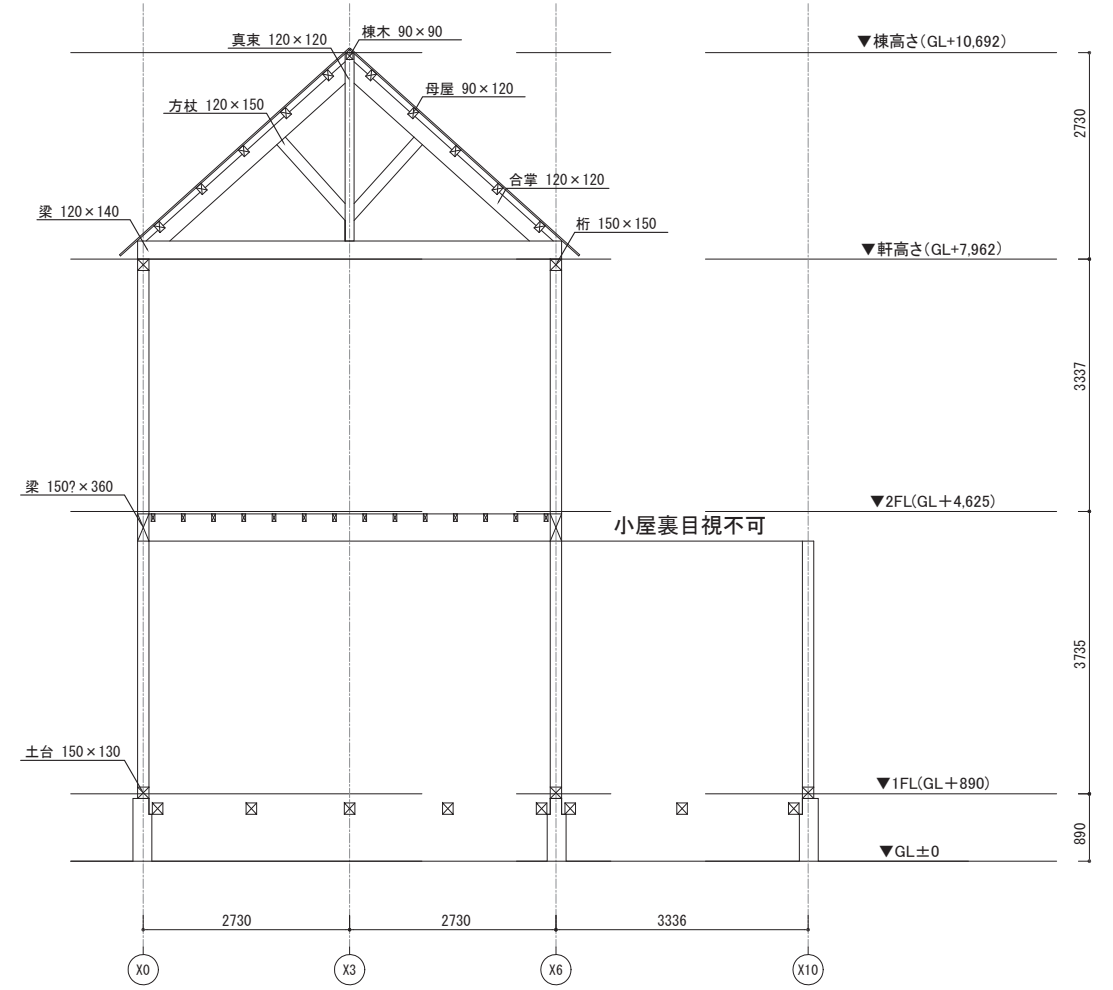
1. 土台
130×100
2. 土台天端レベル
GL+690
3. 既存大引
大引天端レベル
1FL-58
4. 既存根太
根太天端レベル
1FL-13
5. 床仕様
板材(t=13)
6. 柱
105x105



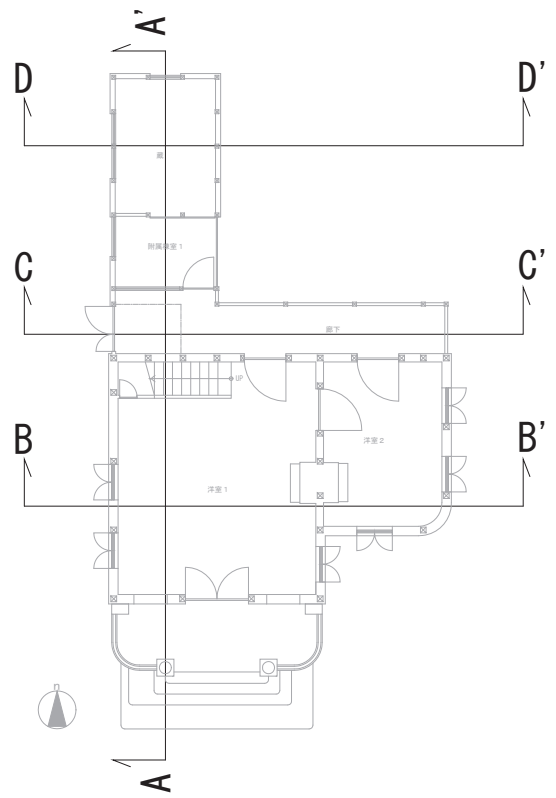
既存屋根伏図

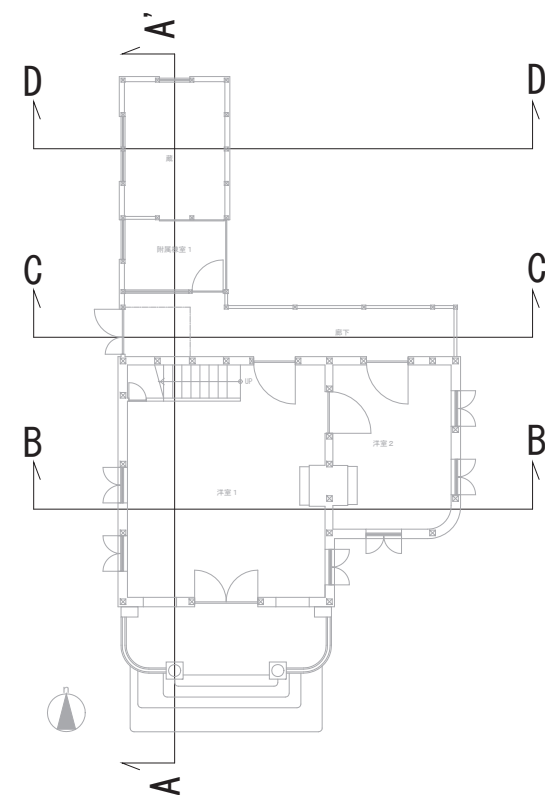
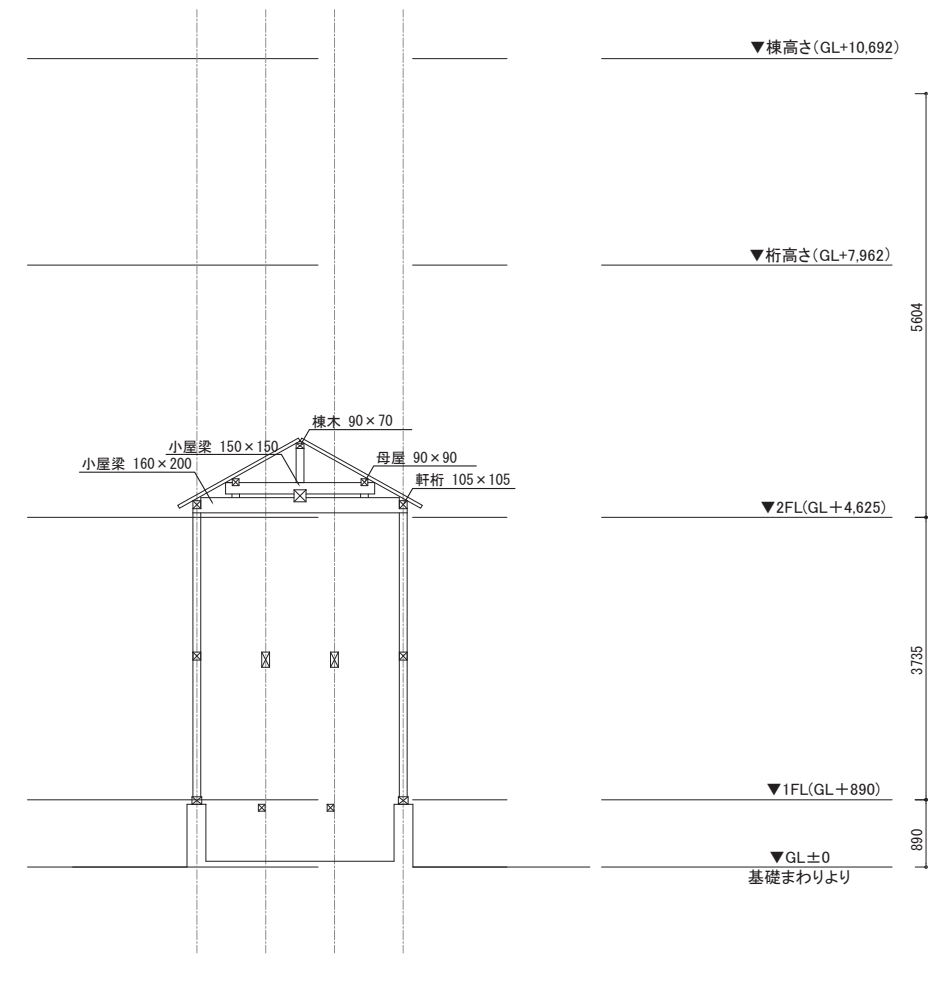
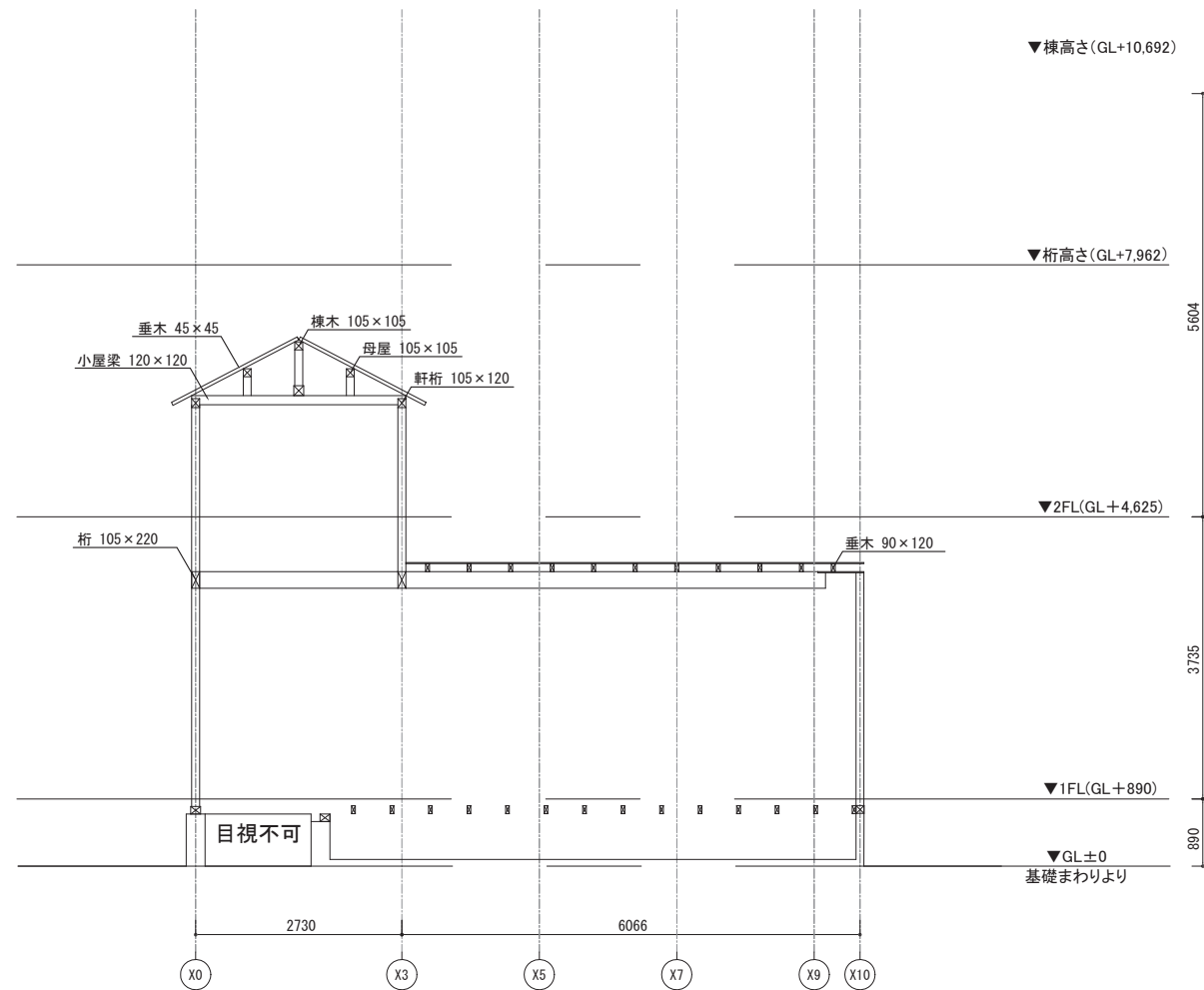


A-A'断面図



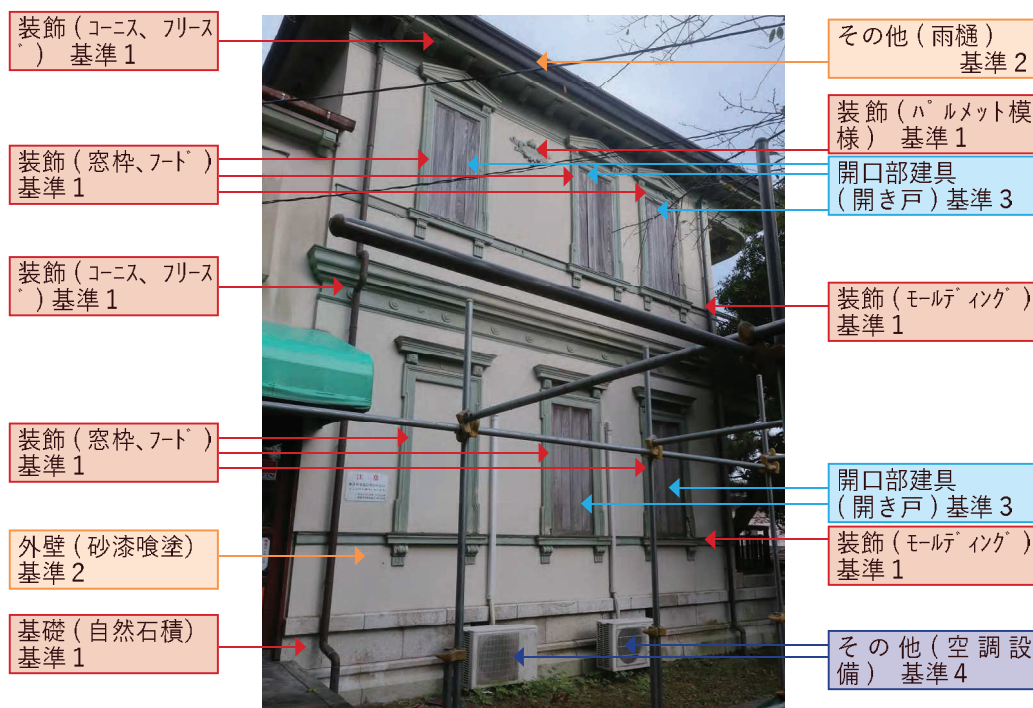
B-B'断面図



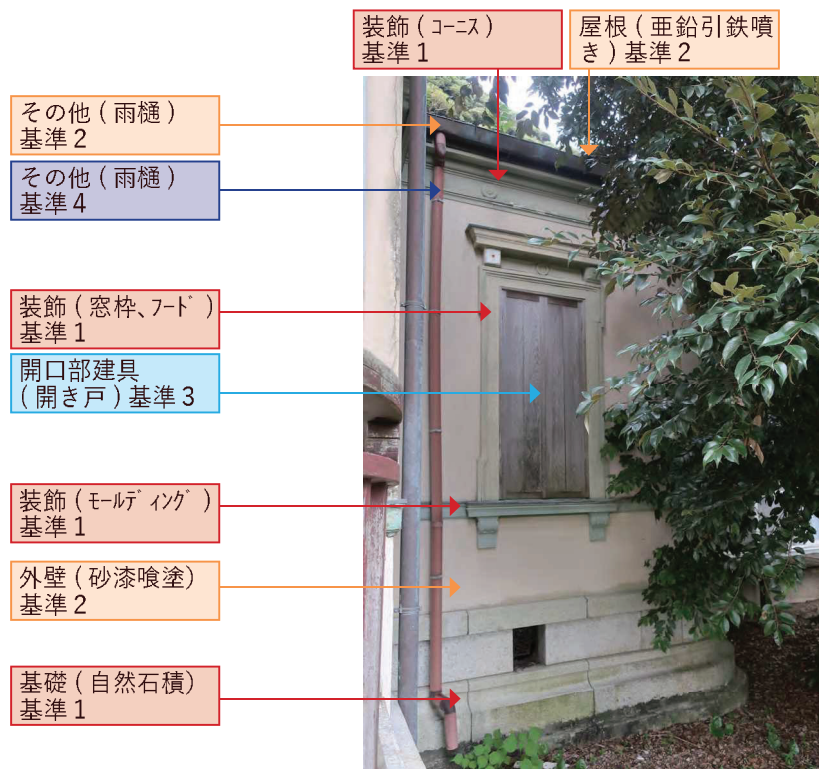




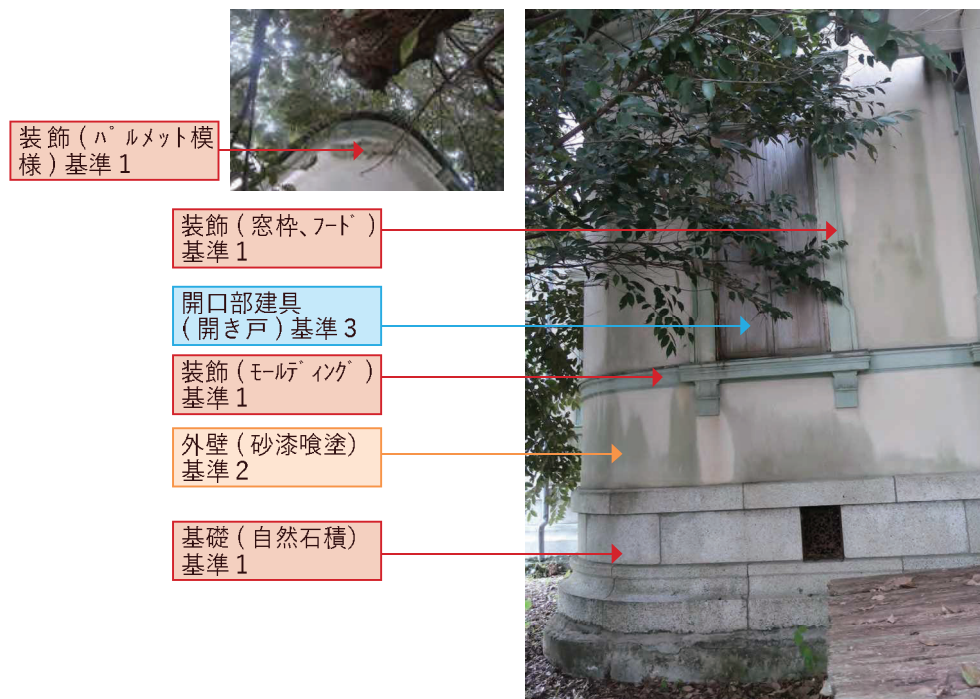
洋館（本館） 南側立面【保存部分】



洋館（本館） 西側立面【保存部分】



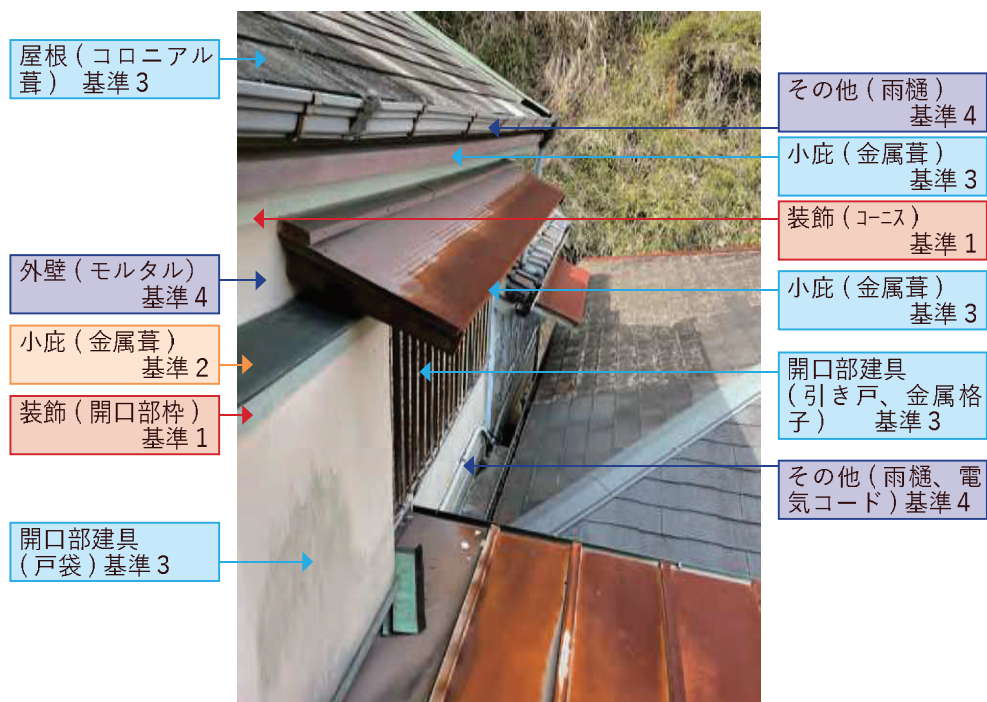
洋館（本館・平屋部分） 南側立面【保存部分】



洋館（本館・平屋部分） 東側立面【保存部分】



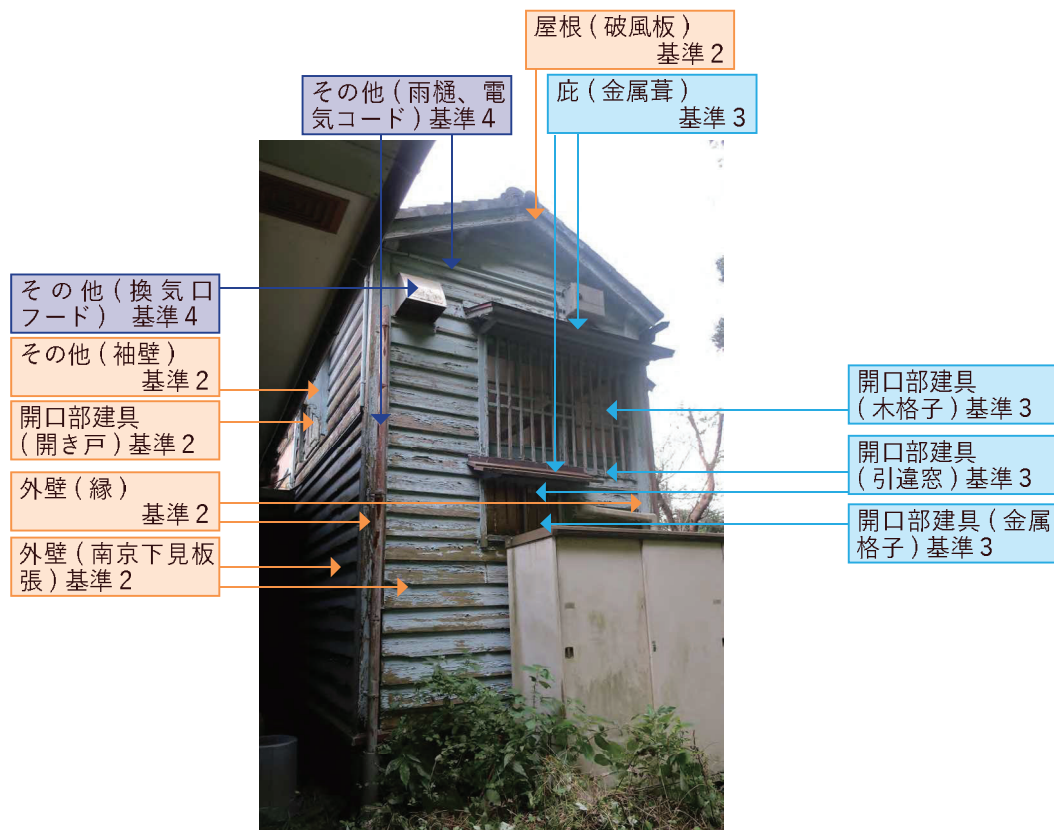
洋館 (附属棟) 西側立面【保存部分】



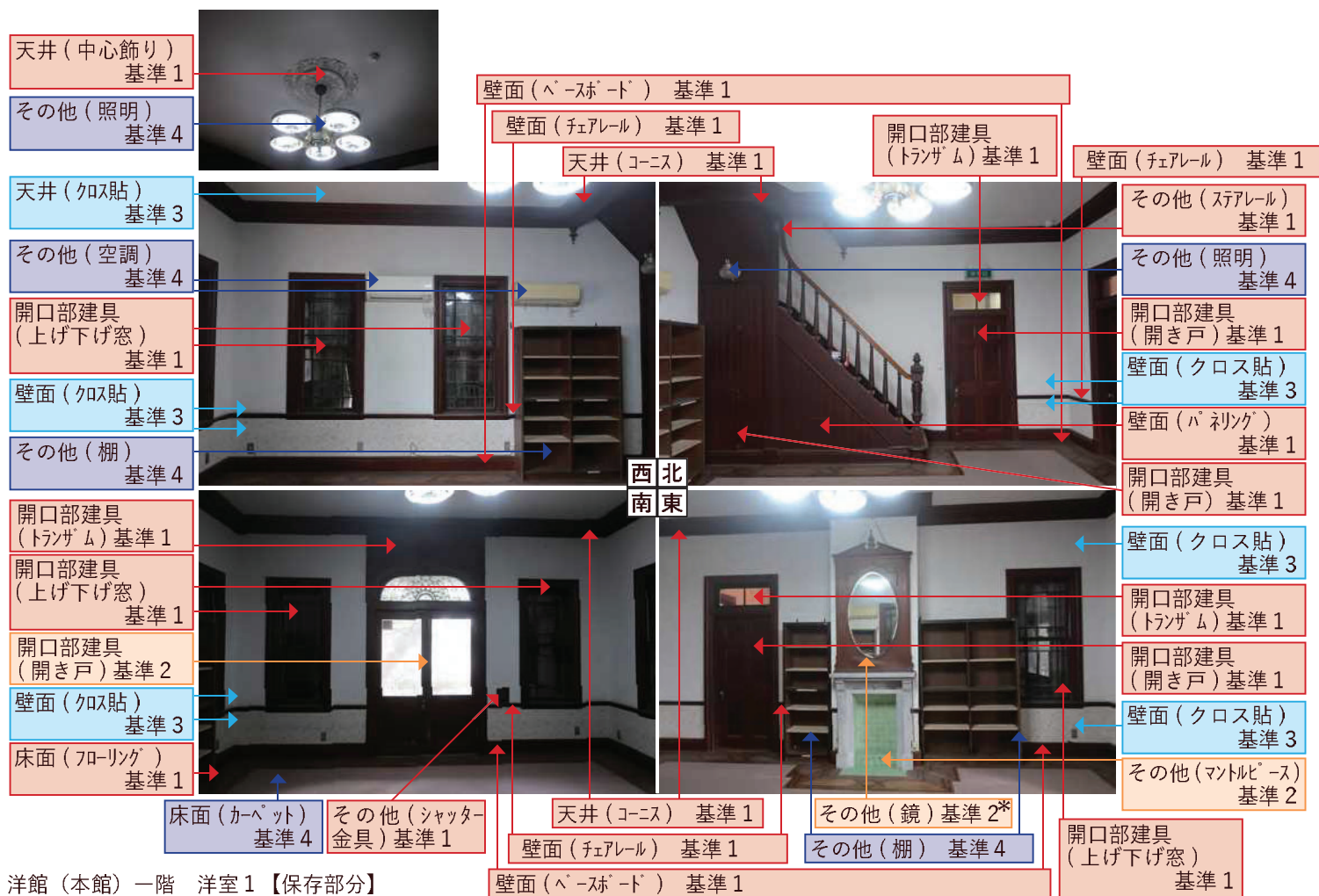
洋館 (附属棟) 東面立面【保存部分】



蔵 西側立面【保存部分】

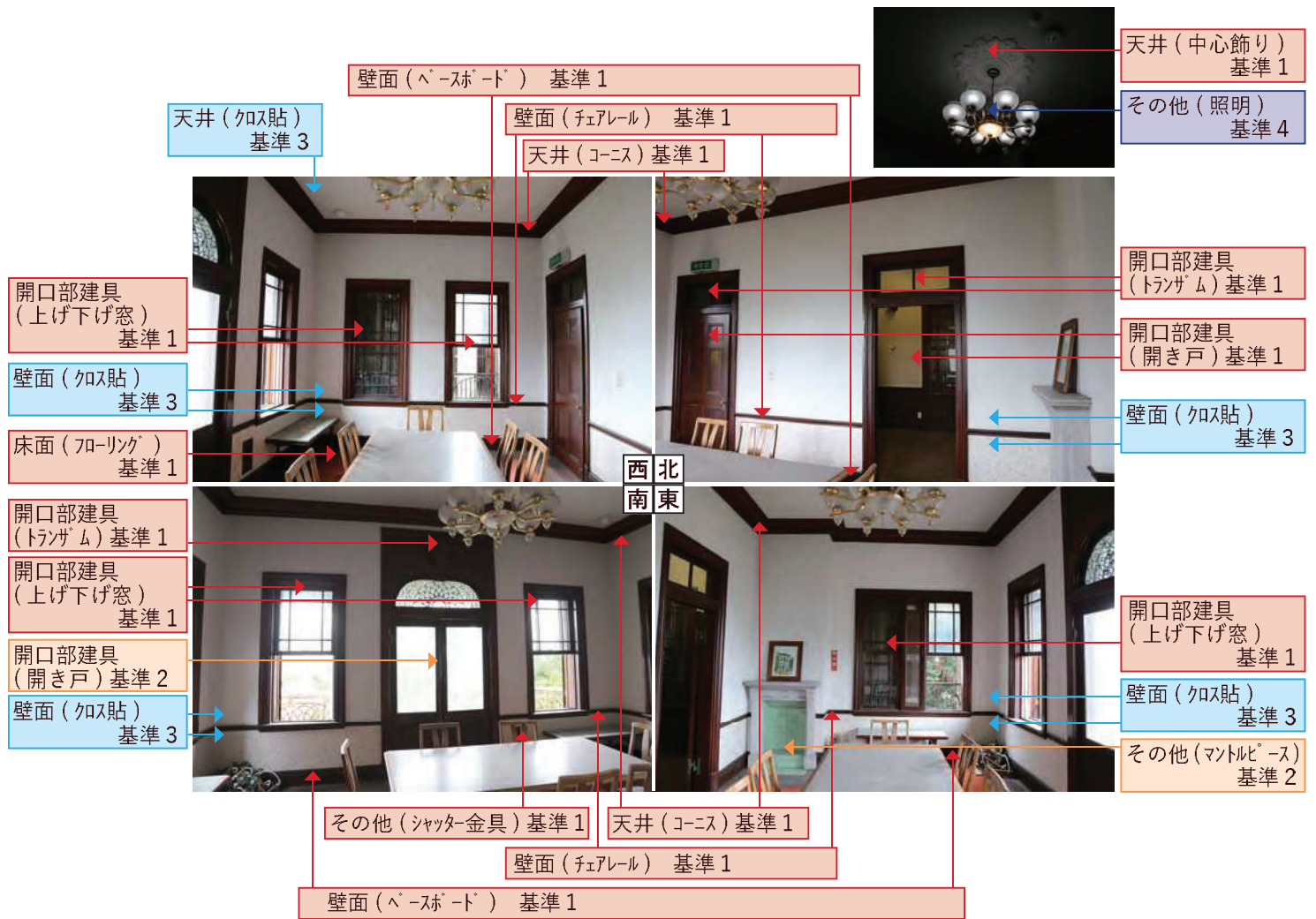


蔵 北側・東側立面【保存部分】

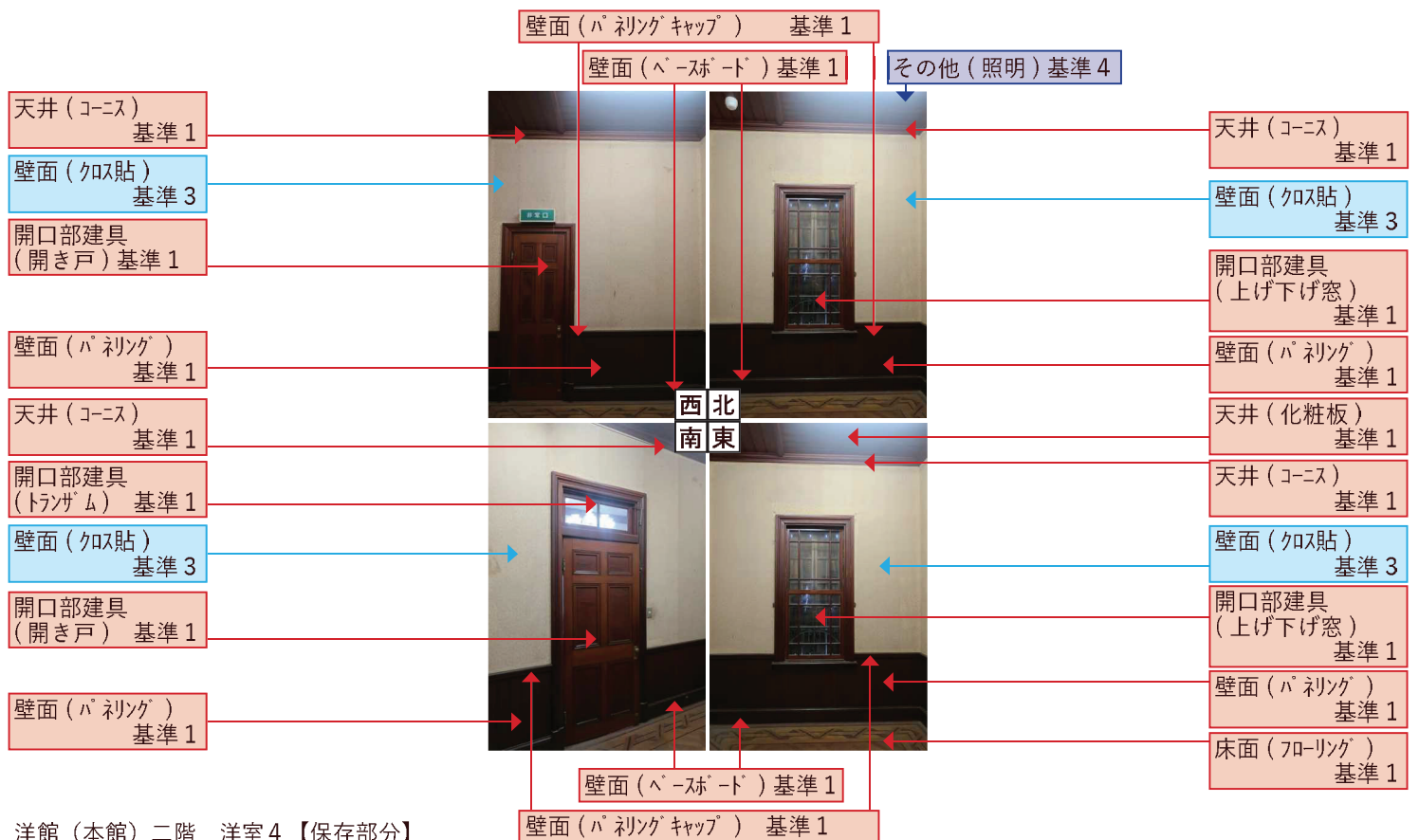


*設置場所を固定するものではない

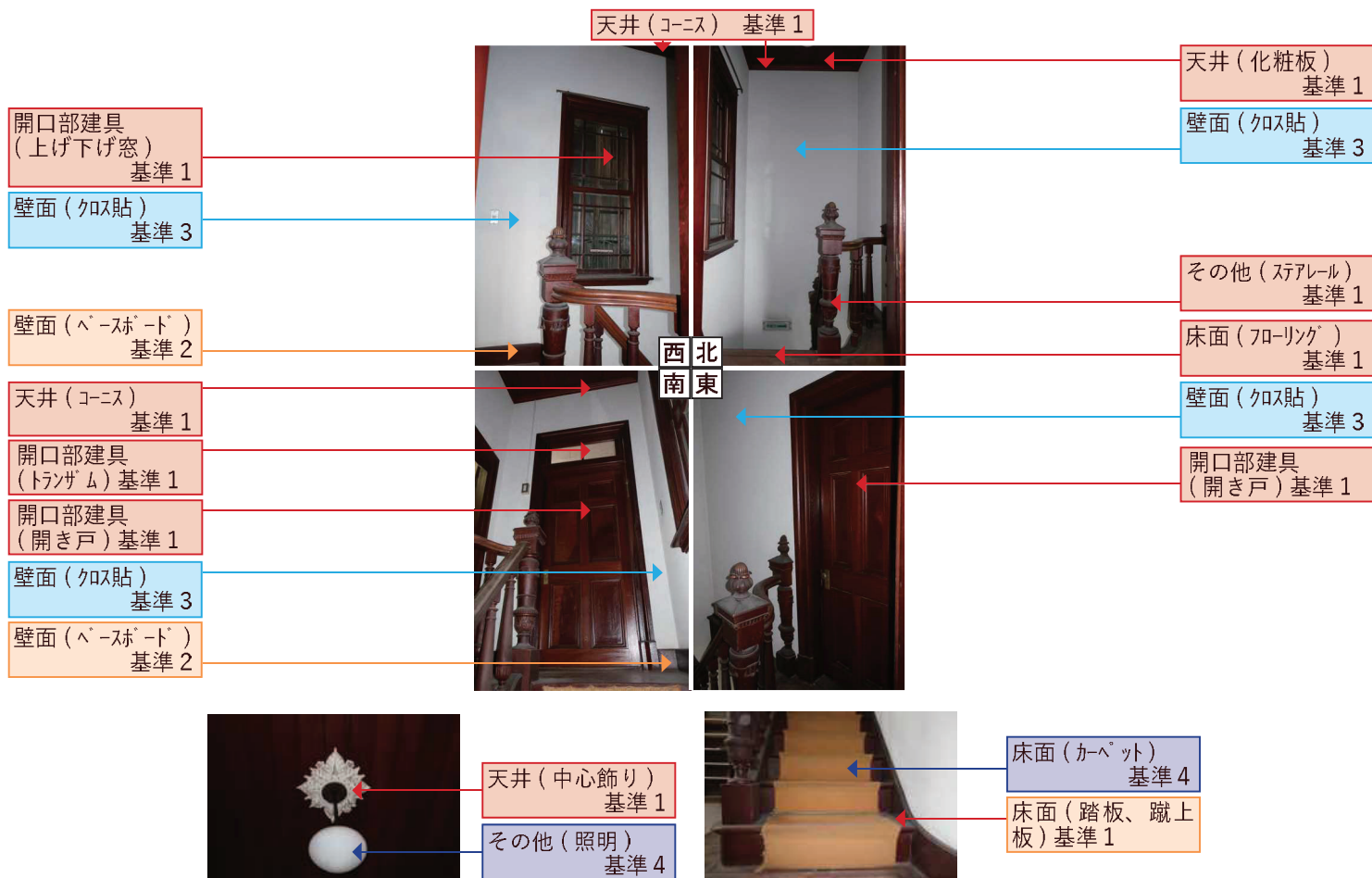




洋館（本館）二階 洋室 3 【保存部分】



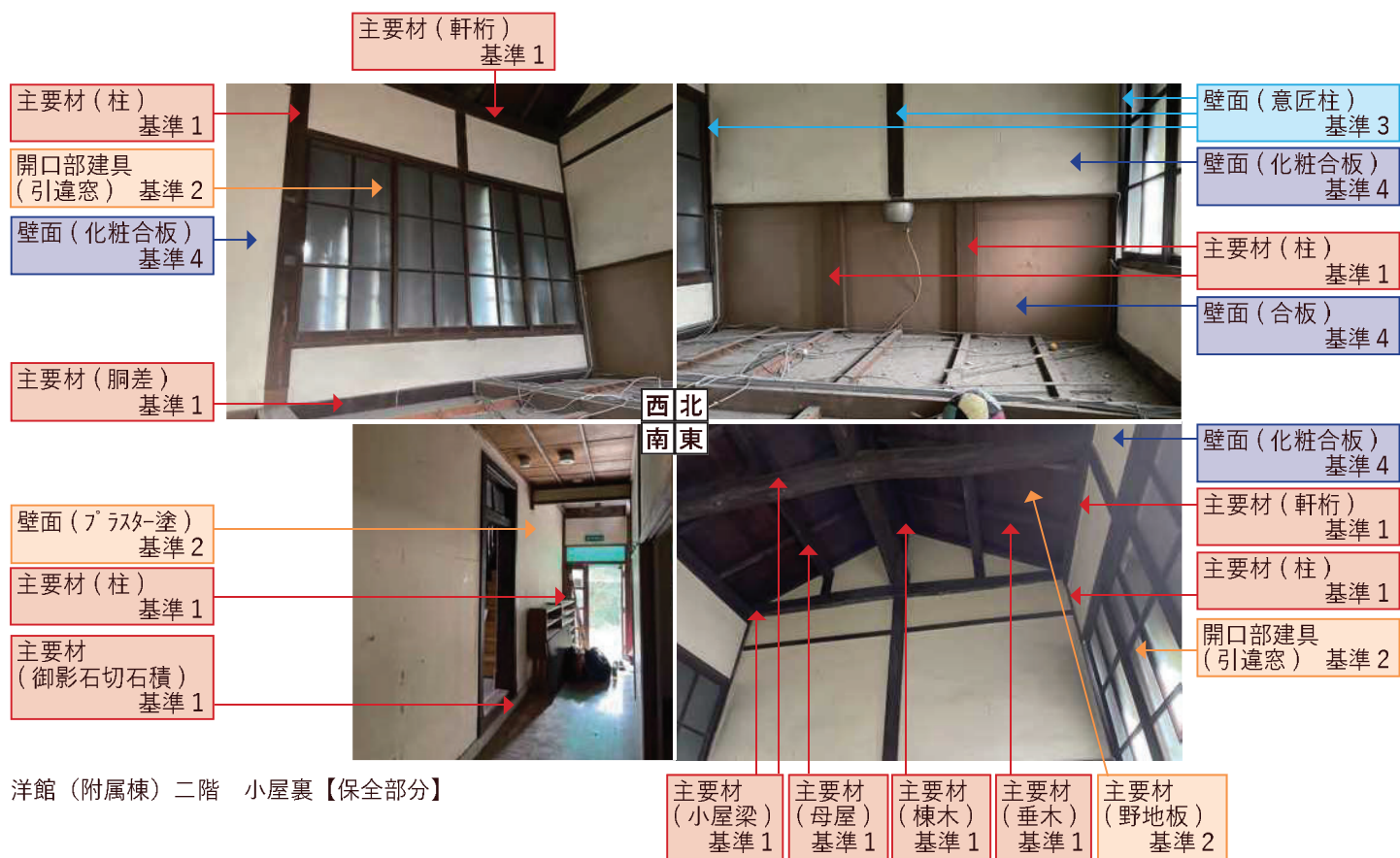
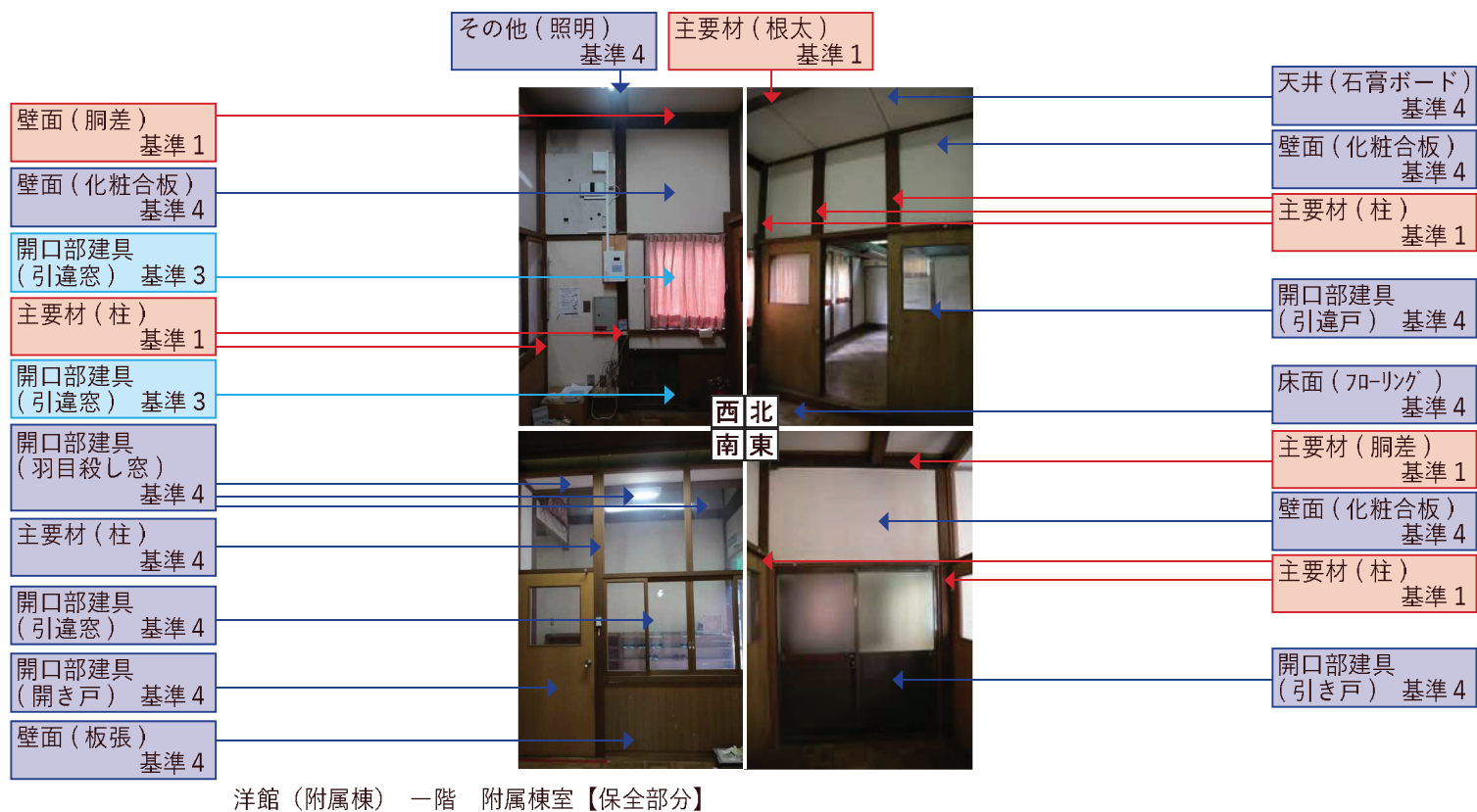
洋館（本館）二階 洋室 4 【保存部分】



洋館 (本館) 二階 階段室【保存部分】



洋館 (廊下) 一階【保全部分】





蔵 一階【保全部分】

(3) 部分・部位の設定に関する所見

1) 全体

- ・登録文化財の申請の建物調査報告書（平成6年（1994年）吉田鋼市氏外8名）に記載されている当該建物の価値を踏まえ、特に価値が表出している部位、構造材を保存する対象と捉える。
- ・建物の当初の姿や、市に寄贈された昭和55年（1980年）以前の状況を確認できる資料がないため、建設当初の仕上げを確認することが難しく、今日見られる建物と昭和55年（1980年）以降の資料をもとに判断している。
- ・昭和55年（1980年）の改修工事の仕上げ表や改修計画図等から、改変の履歴を確認できる。
- ・調査結果は、関東学院大学名誉教授の水沼淑子氏による現地確認も踏まえ、成果を取りまとめている。

2) 個別事項

- ・洋館（本館）の一階洋室1の西側は、一部窓が埋められた痕跡がありますが、資料からはかつて窓であったことは確認できない。
- ・洋館（附属棟）の建物外壁は、従前は洋館（本館）と同様、砂漆喰塗りと推察される（昭和55年（1980年）仕上げ表では判断できないが、コーニスが本館とのつながりを伺わせる。）
- ・洋館（廊下）は、昭和55年（1980年）の現況図・計画図や航空写真を踏まえると、現在みられる仕様は改変後と推察される。
- ・洋館（廊下、附属棟）、蔵は、昭和55年（1980年）の改修工事の仕上げ表において内装の仕上げが変更になっていることが示されている。現地の状況も踏まえ、主要構造材以外は改変されていることが確認できる。
- ・洋館（本館）の一階洋室2の壁面（パネリング）は、建設当初のものであるかは不明である。コンセントカバーを取り外し確認したところ、パネルは玉壺模様一枚板（ケヤキ材と推察）で厚みがあり、コーナーの曲面の造りを踏まえると、建設当初のものでなくても価値が高いと考え、基準1としている。（参考資料参照）
- ・洋館（本館）の一階洋室1及び二階洋室3のシャッターのプレートは、「榮進社式捲上防火戸／東京府下日暮里町一二八／合資 會社榮進社」が銘記されている。同社は、『清水建設(株)』『清水建設百五十年』(1953年11月)』*によると、大正5年（1916年）11月に設立された会社であり、シャッターは明治41年（1908年）の建設当初は設置されていないと思われる。しかし、内部構造との関係や今日見られない工業製品であることを踏まえ、基準1としている。なお、トランザムに設置されているレリーフの仕掛けと連動してシャッターが動作するようになっているが、現状、動作が確認できない状態となっている。（参考資料参照）
- ・かつて使われていたと思われる開口部の枠が残っていますが、場所は特定できていない。（参考資料参照）

* 渋沢社史データベース (https://shashi.shibusawa.or.jp/details_nenpyo.php?sid=470&query=&class=&d=all&page=26)

参考資料

(1) 現状写真

1) 構造材

■洋館（本館）



1 階床下（土台まわり／大引・根太）



2 階床下（梁・根太）



小屋裏（軒桁・梁まわり／棟木・真束まわり）





1 階 柱、筋交い（柱／筋交い）



2 階 柱、筋交い（柱／筋交い）

■洋館（廊下）



1 階床下（大引・根太まわり／改修前後の構造体まわり）



小屋裏



柱

■洋館（附属棟）



1 階床下（土台まわり／大引・根太まわり）



2 階床下



柱



小屋裏（軒桁・梁まわり／棟木・束まわり）



■蔵



1 階床下（土台まわり／大引・根太まわり）



小屋裏（軒桁・梁まわり／棟木・束まわり）



柱

2) 非構造材

■洋館（本館）



外観（壁：南側／壁：西側）



外観（屋根）



内観（洋室1 開口部建具（トランザム）のレリーフの姿）